

› 持続可能な社会を目指して

Sustainability in Japan



ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

グループ全体のサステナビリティ報告について

株式会社 LIXIL および、海外の子会社を含めた LIXIL グループ全体で進めるサステナビリティへの取り組みについては、持ち株会社である株式会社 LIXIL グループの公式ホームページ（Global サイト）で、年次報告を基本に公開しています。GRI ガイドラインの対象リストを添え、重要データについては第三者保証を受けています。経営ビジョンやグループ全体のガバナンス体制、IR 関連情報も Global サイトをご覧ください。

LIXIL グループ

公式ホームページ「サステナビリティ」は[こちら](#)

本 PDF 報告について

本 PDF は、2018 年 3 月末時点の

株式会社 LIXIL 公式ホームページ「持続可能な社会を目指して」の公開情報を、年次報告としてまとめたものです。

LIXIL グループは世界のさまざまな社会課題についてグローバルで取り組んでいますが、日本においても企業としての責任を果たしていくため、さまざまな活動を継続的に行ってています。

株式会社 LIXIL 公式ホームページでは、株式会社 LIXIL と子会社が国内で取り組んでいる CR 活動について都度更新、公開しています。各工場や営業所、子会社などの従業員が、地域の一員として取り組む具体的な内容や職場環境づくりなど、最新の情報をご覧いただけます。

株式会社 LIXIL

公式ホームページ「持続可能な社会を目指して」は[こちら](#)

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する
情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合



➤ ステークホルダーエンゲージメント

LIXIL グループは、世界中で革新的かつ責任ある活動を通して生活の質向上に貢献することを目指し、2016年3月、グループのコーポレート・レスポンシビリティ（CR）戦略、重点分野と目標を新たに設定しました。

[コーポレート・レスポンシビリティ（CR）戦略（Global サイト）>](#)

日本においても、持続可能な社会の構築に貢献することで、社会的責任を果たし、自らの持続可能性も追求していきます。

LIXIL の事業活動は、多くのステークホルダー（利害関係者）とのつながりの中で行われ、支えられています。お客さまをはじめ、取引先などのビジネスパートナーや事業拠点の地域に暮らす方々、LIXIL に投資し未来を託してくださる株主・投資家、従業員やその家族たち、あらゆるステークホルダーと真摯に向き合い、公正で健全な経済活動を行い、社会からの期待に応えてまいります。グローバルリーダーとして、長期的な社会的視点を忘れず、ステークホルダーとの関係構築の中で社会課題の解決に取り組み、地球環境への負荷に配慮した価値を創造していくことで、LIXIL は未来世代への責任も果たしていきます。それが持続可能な社会への貢献となり、社会からの信頼獲得につながると考えます。

ステークホルダーについて

お客さま



LIXIL は、優れた製品とサービスを提供し、気持ちよく使っていただくことで利潤を得、社会に貢献し、事業を行っています。お客さまに安心してお使いいただき、満足いただける商品・サービスを提供し、受け入れていただくことが事業存続の要点です。

豊かで快適な住生活の未来に貢献していくためにお客さまの声に耳を傾け、専門家の助言を受けとめながら、その期待に応えていくことによって、お客さまとの信頼構築に努めています。

地域社会

LIXIL は、日本国内においても 40 の生産拠点、100 を超える営業拠点が、それぞれの地域社会の中で事業を行っています。

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合



グローバルな視点を忘れず、社会を構成する一員として、ビジネスの範囲にとどまらず、地域と協働していくことが重要だと考えます。地域社会には、そこで生活を営む市民の皆さまをはじめNPO、行政、教育関係者、地元企業など、あらゆる立場の多様な人たちがいます。

接点のなかった人たちとの出会いによって、従業員一人ひとりの意識も触発されます。相互に理解しあうことから始めています。

従業員や従業員の家族



LIXIL グループは、全世界で 70,000 人以上の従業員を擁するグローバル企業です。多くの従業員の周りには家族や友人たちがおり、雇用創出とその維持は企業に求められる大きな役割です。従業員が多くの時間を割く場である LIXIL は、安心して働け、それぞれの能力や特性を発揮できる環境を提供しなければなりません。より良い労使関係が LIXIL の生み出す提供価値を高めます。

サプライチェーン：仕入先や販売先、ビジネスユーザー



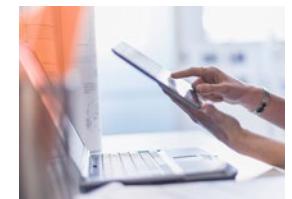
LIXIL の事業は、ビジネスパートナーである取引先に支えられています。世界中の取引先と健全なパートナーシップを築いていくために、「公正・公平な取引」「社会規範の順守」「人権の尊重と労働環境への配慮」「環境への配慮」「取引先様との共存共栄」を柱とした「調達方針」を定め、グローバルで推進しています。グループ全体の取り組みを参照ください。

[サプライチェーンマネジメント \(Global サイト\) >](#)

株主、投資家

株式会社として、株主への利益還元は必須です。将来への投資を勝ち取るためにも、LIXIL は長期的な展望に立ち、グローバルな評価にも耐えていかなければなりません。短期的収益も維持しつつ、中長期で社会の持続可能性に寄与できる企業として、経営基盤を整えていきます。ガバナンス体制を強化し、20 年 30 年後を見据えた、リスク回避や機会創出を図っていきます。

[株主・投資家向け情報 \(Global サイト\) >](#)



地球環境



すでに人類の資源消費量は、地球 1 個分では足りなくなっています。地球温暖化防止はもとより、生物多様性の維持、希少資源の保全やリサイクル、水や食料の問題も顕在化しています。

多くの資源を加工し製造するメーカーとして、また水や電気を使用する製品を提供する LIXIL として、地球環境への負荷低減は重要な使命です。グループ全体で、グローバルで環境保全の取り組みを進めています。

[環境 \(Global サイト\) >](#)



その他、各界の専門家・有識者、NPO・NGO、行政、業界団体・・・

企業は多くのステークホルダーとの関係の中で経営を行っています。R&D や HR (人事)、渉外部などそれぞれの機能組織もそれぞれに社外のネット

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

ワークを持ち、さまざまな声を聴きながら事業活動を行っています。LIXIL内の知見にとどまらず、広く知恵を借り、指摘を受けとめながら、持続可能な社会に向けた企業の役割を確認し、企業としての持続性も担保していきます。LIXILのすべての部門、すべての人たちが、社会的視点を持って自身の活動を振り返る機会を増やしていきます。

これまでのステークホルダーダイアログについて

LIXILは、さまざまなステークホルダーとダイアログ（対話）を実施しています。地域の皆さんと対話する「コミュニティ・ダイアログ」は、全国各地の工場や営業所が主体となって取り組み、開催拠点数も90か所を超えるました。最新のダイアログおよび、これまでの開催概要については、以下のページをご覧ください。

[地域との対話はこちら >](#)

説明責任（情報開示）について

社会課題の解決に向け、自ら行動し、あらゆるステークホルダーからの期待に応えていくことは容易ではありません。持続可能な経営をめざし、事業推進していくことを理解いただくために、LIXILはインテグリティを持って情報開示を行っていきます。

グループ全体のサステナビリティ報告は、LIXILグループの公式ホームページ（Globalサイト）で公開しています。年次報告を行い、重要データについては第三者保証を得ています。IR関連情報も含め、Globalサイトをご覧ください。

[サステナビリティ（Globalサイト）>](#)

本レポートでは、日本での社会課題を踏まえ、株式会社LIXILとその子会社の国内での活動を中心に記載しています。地球全体の環境負荷低減に取り組みつつ、地域の自然環境も日本に暮らす私たちが保全していくなければなりません。日本のお客さまや従業員、事業を行う地域社会の中での取り組み、そして将来を担う大切なステークホルダーである未来世代に向けた活動の紹介です。



各年度末時点での公開情報は、以下で参照できます。

 [2017年3月末時点の掲載情報
レポートはこちら \(7.3MB\) >](#)

ステークホルダー
エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合



➤ お客さまのために

LIXILは、お客さまからの信頼獲得の源泉は、「製品・サービスにおける品質」にあると考え、長年培ってきた知見・ノウハウをいかしながら、環境に配慮し、お客さまに安心してお使いいただける、質の高い製品・サービスの開発に努めています。住宅からオフィス・商業施設まで、多岐にわたる商品を、ともにお届けするビジネスパートナーの皆さまと、継続したよりよい関係づくりに取り組み、地域や社会課題の解決にも挑戦しています。



安全に関する情報発信と啓発

安全なくらしのギャラリーや安全教育授業プログラムなど、暮らしの中で知っておきたい安全についての情報を、お客さまにお届けしています。

[more >](#)

ビジネスパートナーとともに

LIXILの事業は、流通や設計、施工に携わる方々に支えられています。お客さまに豊かで快適な住生活の未来を届けていくために、ビジネスパートナーの皆さんとの協働を大切にしています。

[more >](#)

ステークホルダー
エンゲージメント

お客様のために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

関連リンク

[経済産業省 製品安全ガイド >](#)

製品安全に関する政策や法令、事故情報など、消費者や事業者に向けたさまざまな情報が公開されています。

[サステナビリティ 製品安全 \(Global サイト\) >](#)

製品安全・品質マネジメントシステムや品質方針、事故発生時の対応や対策については、グループ全体で取り組み、情報開示しています。

[サステナビリティ 顧客満足 \(Global サイト\) >](#)

お客さま満足の維持・向上を図るために、グループ全体の製品およびサービスに関する取り組みを継続しています。

[お客さまの声を活かした事例のご紹介はこれら >](#)

お客さまから寄せられた声をもとに取り組んだサービスの改善事例をご紹介しています。

ステークホルダー
エンゲージメント

お客さまのために

| 安全に関する
情報発信と啓発

| ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

| 地域との対話
| 自然環境の保全
| 復興支援
| 地域との協働
| 寄付、協賛、共催

未来世代のために

| 伝え、ともに学ぶ
| 日本での評価、約束

従業員とともに

| 多様性の尊重
| 働きがいのある職場環境づくり
| ヘルスケア
| 労働組合



ホームページでの情報発信

住宅設備機器や建材は、長期間にわたってお使いいただくことが多く、住む人のライフステージの変化への対応も求められています。施工を伴い、簡単に取り換えられない製品だからこそ、安心して使い続けられる製品の提供に努めています。LIXILは、省エネ・節水といった製品性能などの情報ばかりでなく、長期使用による劣化への注意喚起や定期点検の重要性、万一の事故への対処法など、さまざまな場面を想定した情報を、ホームページで公開しています。特に、製品不具合に関する情報や災害時の対応などの重要な情報は、LIXILトップページに入口を設置し、周知を心掛けています。

また、製品について知りたいことや迷ったことを確認したり、お問い合わせいただけるようお客さまサポートのページでは、[ご使用上の注意](#)、[トラブル診断](#)、[お手入れ・お掃除方法](#)などを掲載し、[取扱い説明書の閲覧](#)も可能です。

[重要なお知らせはこちら >](#)
[お客さまサポートはこちら >](#)

Safe Lifestyle Gallery (安全なくらしのギャラリー)

快適な住生活をご提供する製品も、誤った使い方や経年劣化などにより思わぬ事故につながることがあります。製品事故を未然に防ぐためには、事故によって引き起こされる現象やその原因について、正しくご理解いただくことが大切だと考えます。

「Safe Lifestyle Gallery」では、シャワートイレ焼損事故など製品事故の再現展示や、独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）が行った製品事故の再現映像をご覧いただけます。また、未永く安全に安心してお使いいただくためのお手入れや点検のポイント、製品安全・消費者教育に関する新しい情報もパネルなどで紹介しています。



「Safe Lifestyle Gallery」は、「LIXIL資料館」内に併設されています。

[LIXIL資料館はこちら >](#)

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

| 安全に関する
情報発信と啓発

| ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

| 地域との対話
| 自然環境の保全
| 復興支援
| 地域との協働
| 寄付、協賛、共催

未来世代のために

| 伝え、ともに学ぶ
| 日本での評価、約束

従業員とともに

| 多様性の尊重
| 働きがいのある職場環境づくり
| ヘルスケア
| 労働組合

安全教育授業プログラム

LIXILでは、製品安全活動の一環として小学校5・6年生を対象とした「安全教育授業プログラム～家の中の安全を考えよう～」をNPO法人企業教育研究会(ACE)と共同で開発し、学校教員や教育関係者を対象に無償提供しています。身近な事例ドラマを視聴しながら、「家の中に潜むキケン」について学び、事故を未然に防止する方法について、子どもたちが自ら考え、行動することを促すプログラムです。

また、この教材を使用したLIXIL従業員による出前授業も実施しており、2016年度は30校で61回開催し、児童1,872人が参加しました。児童からは、「外にキケンがあることは分かっていたけど、家の中にもこんなにキケンな場所があるとは思わなかった」「事故を防ぐためにこんな方法があるんだなと思った」「友だちや家族にも伝えたい」といった感想が聞かれました。

本教材は公益財団法人消費者教育支援センターが主催する「平成26年度消費者教育教材資料表彰」において優秀賞を受賞しました。LIXILは今後も、主体的に考え方行動する消費者市民の育成にも貢献してまいります。



- [詳細とお申込み方法はこちら >](#)
- [公益財団法人「消費者教育支援センター」公式サイト >](#)
- [NPO法人「企業教育研究会」公式サイト >](#)

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

| 安全に関する
情報発信と啓発

| ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

| 地域との対話
| 自然環境の保全
| 復興支援
| 地域との協働
| 寄付、協賛、共催

未来世代のために

| 伝え、ともに学ぶ
| 日本での評価、約束

従業員とともに

| 多様性の尊重
| 働きがいのある職場環境づくり
| ヘルスケア
| 労働組合

安全教育授業プログラム「家の中の安全を考えよう」 (小学校5・6年生向け)のご案内

はじめに

子どもたちに事故のない安全な暮らしを送ってもらうために、学校現場では安全教育の推進が求められています。

家の事故による死者数は年間14,300人(※1)で、交通事故による死者数4,400人(※2)の3倍近くになっています。子どもたちが多く時間を使っている家の中で事故に遭わないようにするために、また主体的に行動して安全な暮らしを送ることができるようになるための教育が必要となっています。

LIXILでは、子どもたちとともに安全を考えることを目的として、小学校5・6年生を対象とした「安全教育授業プログラム～家の中の安全を考えよう～」をご用意しました。

※1 厚生労働省「平成26年人口動態統計年報」

※2 警察庁「平成27年警察白書」

教材のセット内容

教材名	安全教育授業プログラム～家の中の安全を考えよう～	
内訳	①指導手引 (A5版16ページ)	授業の流れやモデル授業案を説明しています。 事例ドラマ2編と授業の進行を補助するスライドが入っています。 危険を予知する特殊能力をもった主人公が、家族が事故に遭わないようにするために事前にできることがないかを児童と一緒に考えます。 (内容) <ul style="list-style-type: none">・ドラマ「超能力少女アイ」(12分57秒)・発展学習用ドラマ「超能力少女アイ2」(10分10秒)・スライド(20ページ) ※チャプター画面により、視聴したいドラマを選択することができます。
	②DVD(1枚)	
	③ワークシート (A4版×2枚)	自分の家について調べる発展課題用のワークシートです。 ※コピーしてご使用ください。



指導手引 (表紙)



ドラマ主人公<アイちゃん>



スライド (全20ページ)



ワークシート

ステークホルダー
エンゲージメント

お客さまのために

| 安全に関する
情報発信と啓発

| ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

| 地域との対話

| 自然環境の保全

| 復興支援

| 地域との協働

| 寄付、協賛、共催

未来世代のために

| 伝え、ともに学ぶ

| 日本での評価、約束

従業員とともに

| 多様性の尊重

| 働きがいのある職場環境づくり

| ヘルスケア

| 労働組合

お申込み方法

ご希望日の14日前までに、下記の必要事項をご記入の上Eメールにてお申込みください。

受付完了後、10営業日前後で郵送または宅配便によりお届けします。

【お申込み時の必要事項】

① 学校名・団体名	② 学校名・団体名フリガナ	③ ご担当者名
④ ご担当者名フリガナ	⑤ E-Mail	⑥ 郵便番号（半角数字）
⑦ ご送付先住所	⑧ 電話番号（半角数字）	⑨ お問い合わせ内容など

- ・お申込み受付対象は、学校教員および教育機関関係者とさせていただきます。
- ・教材・送料とも無料でお送りいたします。
- ・在庫状況によってご希望に添えない場合があります。あらかじめご了承ください。

【お申込み・お問合せ先】

本教材に関するお申込みやお問合せは、下記の宛先までメールでお送りください。

株式会社 LIXIL 安全教育授業プログラム係

E-Mail : anzen2015p@lixil.com

個人情報の取り扱いに関しては、LIXILプライバシーポリシーをご参照ください。[URL : http://www.lixil.co.jp/privacy/](http://www.lixil.co.jp/privacy/)

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合



お客さまのために
➤ ビジネスパートナーとともに

LIXILは、住宅ばかりでなく、駅などの公共施設やオフィス、ホテル、商業施設などでも多くの製品を採用いただいているが、お客さまにLIXIL製品を安全に快適に使用いただくためには、流通店や設計者、施工業者の皆さんの協力が欠かせません。LIXILは、お客さまに豊かで快適な住生活の未来を届けていくためにも、ビジネスパートナーの皆さんとの協働を大切にしています。

2017年4月にスタートした「みんなにトイレをプロジェクト」では、あらためてビジネスパートナーの方々にLIXILのCR活動の姿勢や考えを知っていただく機会となり、共感の輪が広がっています。四国から始まった「おもてなし清掃」は4年目となり、参加者は1,000名を超えるました。これからも、より多くのビジネスパートナー、ビジネスユーザーの皆さんとともに、世界中のひとびとの豊かで快適な暮らし、快適な街づくりに携わっていきます。

「中四国観光地トイレ おもてなし一斉清掃」－中四国支社

「中四国観光地トイレ おもてなし一斉清掃」は、2014年に四国から始まり、2015年からは対象エリアを中四国全域へ広げ、従業員だけでなく、LIXIL製品の販売先であり、日ごろのビジネスパートナーである流通店など建築関係の皆さんにも声をかけ活動しています。

中四国地域は、国内外からの観光客が老若男女を問わず年々増加しています。来訪者へのおもてなしとして、地元の誇る観光名所を私たちできれいにしたい！との思いから、このトイレ美化活動は生まれました。この思いに賛同いただいた、水まわりのプロであり、地域で事業を続けているビジネスパートナーの方々には「サポーター」としてご参加いただき、私たちと志をひとつにする取り組みです。



広島平和記念公園で集合写真

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

| 安全に関する
情報発信と啓発

| ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

| 地域との対話
| 自然環境の保全
| 復興支援
| 地域との協働
| 寄付、協賛、共催

未来世代のために

| 伝え、ともに学ぶ
| 日本での評価、約束

従業員とともに

| 多様性の尊重
| 働きがいのある職場環境づくり
| ヘルスケア
| 労働組合



4年目となる2017年は、総勢1,134名、うち約4割が、サポーターをはじめ地域からの協力者で、全員一丸となって、広島県の原爆ドーム（平和記念公園）、島根県の出雲大社、愛媛県の松山城公園、高知県の桂浜など中四国地域を代表する観光名所24エリアのトイレを一斉清掃しました。

サポーターの方の中には進んで周辺の草むしりを始める等、積

極的に取り組んでいただけました。

初めて参加した方々からは、「トイレの神様に喜んでもらえるよう、一生懸命清掃した」、「気持ちの良い汗がかけた」との感想があり、清掃活動に励みながらも楽しんでいただけたようです。また、今年は人数も増えたことで、より結束が高められたように感じました。

LIXILは流通店をはじめ、地域で事業を行う企業とともに、地域全体を盛り上げ、利用者や観光客に愛され、喜ばれる街づくり、地域活性に取り組んでいます。

[ニュースリリースはこちら>](#)

[出雲大社での清掃活動はこちら>](#)

[地域との協働「中四国観光地トイレ おもてなし一斉清掃」>](#)

みんなにトイレをプロジェクト

LIXILは、世界の衛生課題の解決に向けて、一体型シャワートイレ1台が購入されると、アジアやアフリカの国々へ開発途上国向け簡易式トイレ「SATO」1台を寄付する「みんなにトイレをプロジェクト」を2017年4月から9月まで実施しました。

このプロジェクトは、3人に1人が衛生的で安全なトイレを使用できていないという、世界の衛生問題について、一人でも多くの人に知っていただき、関心を持ってもらうことを目指しスタートしたものですが、「シャワートイレを販売することで、衛生課題の改善に少しでも貢献できうれしい。LIXILにはぜひもっと頑張って欲しいし、周知を拡げたい。」と多くのビジネスパートナーの皆さんの賛同を得ています。

日々の営業活動やイベント開催時には、流通店や設計・施工店から直接間接に「みんなにトイレをプロジェクト」を応援するメッセージをいただいており、従業員にとって大変大きな励みになっています。「シャワートイレを購入し使用されるお客さまに感謝状を届けたい。」「ホームページにバナーを貼ってリンクさせ協力を伝えたい。」といった声や、社内啓発を加速させるために制作した“トイレステッカー”を「販売店のトイレにも貼りたい」などの要望も多く、準備対応を行っています。普段のビジネスの流れを超えた共感が広がっており、ともに世界の衛生課題の改善に取り組むパートナーとして、これからもより良い関係構築を目指していきます。

[「みんなにトイレをプロジェクト」スペシャルサイト>](#)

[「みんなにトイレをプロジェクト」から広がる共感の輪」へ>](#)



私たち、リクシルの取組みを応援しています。

一体型シャワートイレ1台ご購入につき、アジアアフリカの途上国へ
簡易式トイレ「SATO」1台を寄付します。

期間：2017年4月～9月

SATO
SANITARY APPLIANCE
CORPORATION

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

熊本地震の復旧対応—株式会社 LIXIL トータルサービス

2016年4月14日、震度7を観測する余震が熊本市を襲い、16日の本震も加わり、震源地の益城町を中心に、家屋の倒壊など市内は大きな被害に見舞われました。株式会社 LIXIL トータルサービスでは、LIXIL 製品の被災による不具合に対応するため、個人のお客さまへの無料点検の実施や、ビジネスユーザーである株式会社ローソンの店舗復旧支援に全社を挙げて取り組みました。街のそこかしこにあり、生活に欠かせなくなったコンビニエンスストア。店舗の復旧によって、日常が戻っていくことは、災害復興の大切な一歩になると考えます。

[コンビニエンスストアの復旧はこちら >](#)

被災地の無料点検実施

LIXIL では、熊本県・大分県域で発生した熊本地震に係わる LIXIL 製品の無料点検を実施してきました。その中で、メーカーメンテナンスとしての対応を株式会社 LIXIL トータルサービス（以下 LTS）で進めてきました。

シャワートイレや電気温水器など、被災した電気製品については、予期せぬ不具合を引き起こす恐れがあります。地震発生後には、専門知識を持ったメンテナンスエンジニアが、全国各地からローテーションで駆けつけ、お客様からのご依頼に対して、設備機器の点検作業や、開口系商品では2人1組で被災地を巡り、応急処置や対処方法の説明、部品交換などを実施しました。

9月末までに、トイレや水栓金具など水回り設備機器 約2,550件、窓・ドアなど 約920件、合わせて約3,500件のご依頼に対応してきました。9月末で無料点検の受付期間は終了となりましたが、揺れによって歪んでしまったドア枠や窓、門扉、施錠できなくなった窓の不具合などの依頼や対応は継続しています。LTS は、お客様の安全を最優先し、安心して暮らせるサービスの提供を目指しています。そのためにも、緊急時や災害時の点検・対応は大変重要であると考え、体制づくりや標準化を進めています。



ドア本体が歪み、扉が閉まらない場合や、鍵の受け部分が変形して窓が施錠できないなど、一見では不具合が分かりにくいケースも多いですが、防犯上、玄関や窓の開閉や施錠は、たいへん重要です。専用工具で補修したり、部品の取り換えを行ったりします。

株式会社 LIXIL トータルサービス



株式会社 LIXIL トータルサービスは、LIXIL グループ内の工事・メンテナンスをワンストップで提供する LIXIL の子会社で、製品の販売、加工、施工、アフターメンテナンスや、消耗品の通信販売、建築工事の設計・施工管理を行います。専門技術・技能を持ったプロフェッショナルを組織化し、LIXIL 製品のトータルソリューションを支えています。

[公式サイトはこちら >](#)

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | **ビジネスパートナーとともに**

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

出雲大社での清掃活動—中四国支社 山陰中央支店

縁結びの神様として知られる出雲大社での活動は今年で3年目となります。総勢42名での活動でしたが、うち地域の建築関係者さまには由緒ある出雲大社での清掃活動を通しての地域貢献に共感をいただき、昨年の約2倍にあたる29名の方々にセンターとしてご参加いただきました。

9時に全員が集合しての朝礼では、注意事項や役割の確認を行い、敷地内のトイレ2カ所と松の参道周辺を3つのチームに分かれて清掃をスタートしました。皆で声を掛け合いながら活動する姿に参拝者の方々からも「ご苦労様」とお声をかけていただき活動の励みになりました。トイレ清掃は3度目ということもあり、作業も効率良く、スムーズに進めることができました。落ち葉や松の枯れ木等も多く回収できました。

出雲大社の方々からも感謝の言葉をいただき、2017年度の活動を終えました。



今回、多くの若手メンバーを引き連れ活動にご参加いただいた福間さまより、活動への共感を示しコメントを寄せてくださいました。

福間商事株式会社 代表取締役社長 福間 正純さま

島根県 出雲大社には、例年600万人前後の方々が訪れており、平成25年に本殿遷座祭が挙行された際には800万人を超える方々がお参りされたそうです。当福間商事では、LIXIL 中四国支社さんと協働で、出雲大社周辺のトイレ清掃に



取り組んでいます。今回は昨年に比べ作業人数も倍増しましたが、3回目ともなり、効率よく清掃することができました。当日は作業終了後に偶然、千家宮司様が通りかかり、直接感謝の言葉もいただきました。ただ商品を販売していくだけでなく、地域の役に立てる活動に取り組むことで、私たちを応援してくれるファンも増えています。

ですが、トイレを気持ち良く利用してもらえることを願いながら清掃する事が大切だと感じています。改めてこうした活動に参加できることに感謝し、今後とも積極的に取り組んでいきたいと思います。ありがとうございました。

[福間商事株式会社 公式ホームページはこちら >](#)

ステークホルダー
エンゲージメント

お客さまのために
| 安全に関する
情報発信と啓発
| ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で
| 地域との対話
| 自然環境の保全
| 復興支援
| 地域との協働
| 寄付、協賛、共催

未来世代のために
| 伝え、ともに学ぶ
| 日本での評価、約束

従業員とともに
| 多様性の尊重
| 働きがいのある職場環境づくり
| ヘルスケア
| 労働組合

「みんなにトイレをプロジェクト」から広がる共感の輪

このプロジェクトは、一体型シャワートイレ 1 台の販売につき、1 台の開発途上国向け簡易式トイレ「SATO」をアジアやアフリカの衛生環境の整っていない地域に寄付する活動です。世界のトイレの実情を伝えると全国の多くのビジネスユーザーの皆さん、活動への共感を示し応援のコメントを寄せてくださいました。その一部を紹介します。

株式会社フォレスト・オオモリ 代表取締役 岩田 雅之さま

いいプロジェクトですね。我々工務店としては、「サティス」はこうした子どもたちに貢献できると説明して、「それなら協力しよう」とお客さまに共感していくだけよう働きかけていきたいです。これは単なるキャンペーンではなく、活動の第一歩ですよね。この先には物語があって、「最終的にはここまでやり遂げる」と伝えてほしいですね。そして、現地にちゃんとトイレが届いたという情報が返つてくれれば、賛同くださったお客さまにもしっかりと届きます。徹底してこそ意味があると思います。

私はボランティア団体を通じて、アフリカで井戸を掘る活動をサポートしており、海外の水や衛生の厳しい現状も見てきています。まだまだ多くの課題が世界にはあります。ぜひ、これに留まらず、次のプロジェクト、次の活動にも期待しています。



右 岩田雅之さま 左 LIXIL 中部支社長

[株式会社フォレスト・オオモリ 公式ホームページはこちら >](#)

株式会社オストトヨー住器 代表取締役 小林 司さま

日々の活動を通して世界中の子どもたちを救えるなんて、すばらしいプロジェクトです。個社ではなかなかできることですので、LIXILと一緒に活動していくないと強く感じています。

私の本気を示すために、早速会社の全体会議で全社員にプロジェクトの内容を説明し、命を救う活動であることを、そして「このプロジェクトの参加、トイレの拡販は会社の命令ではありません。私からのお願いです」と自分の考えを表明しました。ビルダーさまに対しても、必ず私から誠心誠意、主旨説明を行っています。多くの方に興味を持っていただき、真剣に取り組みたいという力強い言葉もいただきました。このプロジェクトは私たちのがんばりだけでは成り立ちません。ビルダーさまと共に進めています。



栗沢工場で行われた「ビルダー提案会」で説明する小林司さま

[株式会社オストトヨー住器 公式ホームページはこちら >](#)

株式会社ミズノ硝子建材 取締役会長 神田 孝次さま

初めてプロジェクトの話を聞いたとき、世界には衛生問題を抱えている人がこんなにいるのかと驚き、LIXIL の取り組みにぜひ協力したいと思いました。社内にポスターやトイレの販売台数表を貼り、来店される工務店やユーザーの方々はもちろん、訪問先でも積極的に話題にしています。また、私たちが運営しているビルダー会で、積極的に協力を働きかけています。この活動を通じて、世界の衛生環境が少しでも早く改善していくことを期待しています。他メーカーにはない取り組みとして、いろいろな媒体で伝え、広げていきたいですね。それがブランド価値向上にもつながると信じています。一緒に



神田 孝次さま

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | **ビジネスパートナーとともに**

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

がんばっていきましょう。

[株式会社ミズノ硝子建材 公式ホームページはこちら >](#)

株式会社 DORAL 常務取締役 菊地 博則さま

社員には、社内ネットワークやニュースレターを通じて「みんなにトイレをプロジェクト」の情報を発信し、営業先でチラシを配布する活動を進めています。

当社でも社内行事の会費の一部を募金として盲導犬協会などに寄付をするなど、できる範囲で社会貢献の取り組みを行っています。しかし、私たちの事業規模では独自の活動にも限界があり、今回 LIXIL との協働で社会貢献ができるこにうれしさを感じています。単なるモノ売りにとどまらない、営業活動の一環として行える社会貢献は有意義であると言えます。こうした活動は継続することに意味があるので、未永く続けていただきたいですね。

[株式会社 DORAL 公式ホームページはこちら >](#)

富士機材株式会社 商品本部 住設部 機器部 次長 林 幸浩さま

トイレがないことで、伝染病になったり、小さい子どもが病気になったりして、1日に800名もの人びとが亡くなっているという事実を初めて知りました。ただ単に「SATO」をプレゼントするだけでなく、この事実を世間の人びとに伝えることの意義がすごく大きいと感じます。



株式会社 DORAL のみなさま 中央左 菊地博則さま



左から 2 人目、林幸浩さま、LIXIL 関東支社のスタッフらと

LIXIL はこういう試みをしていて、世界に日本のトイレ文化を広げていると積極的にアピールしていきたいです。こういう志のある企業の商品を使いたいというお客さまはきっと多いと思います。

[富士機材株式会社 公式ホームページはこちら >](#)

株式会社アベルコ 営業推進部兼物流部 部長 伊藤 肇さま

最初にスマホのニュースで見たとき、この活動はすごいと思いましたし、私たちも間接的に関わるわけですから、単純にうれしかったです。考えるきっかけももらいました。このように仕事のなかで社会貢献活動に自然に参加できるというのは、すばらしいことです。こうした活動や技術を通じて支援していくのは、日本らしい貢献の仕方ですね。

工務店さまも、お客さまも、ふだんこうした国の人たちのことを考える機会が少ないでしょうから、話題として広がっていくと思います。私たちが営業で訪問する時にぜひ伝え、展示場などにツールを置いていただくようお願いしてみます。



熱心に耳を傾ける伊藤肇さま



[株式会社アベルコ 公式ホームページはこちら >](#)

ステークホルダー
エンゲージメント

お客さまのために
| 安全に関する
| 情報発信と啓発
| ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で
| 地域との対話
| 自然環境の保全
| 復興支援
| 地域との協働
| 寄付、協賛、共催

未来世代のために
| 伝え、ともに学ぶ
| 日本での評価、約束

従業員とともに
| 多様性の尊重
| 働きがいのある職場環境づくり
| ヘルスケア
| 労働組合

熊本地震の復旧対応
—株式会社 LIXIL トータルサービス

2016年4月14日、震度7を観測する余震が熊本市を襲い、16日の本震も加わり、震源地の益城町を中心に、家屋の倒壊など市内は大きな被害に見舞われました。株式会社 LIXIL トータルサービス（以下 LTS）は、震災発生の1か月ほど前、サービス事業として、株式会社ローソン（以下、ローソン）の店舗整備を請け負っていたこともあり、余震直後の15日、ローソンから復旧応援の依頼を受理しました。

コンビニエンスストアの復旧

災害発生時、街のアチコチにあるコンビニエンスストアは、救援物資の提供拠点となり、大手各社は、水やおにぎりの配布など、いち早く活動されていました。ローソンは熊本県下に141の店舗があり、支援物資が届いているものの、店舗配送員も被災し、物資を店舗に並べることは難しい状況でした。ショーケースの破損など、店内も営業できる状況ではありませんでした。東京から現地入りしたLTS本社スタッフは16~19日に、まず被害状況の把握から開始。ローソンのスタッフと手分けして、141店舗の状況を調査し、店舗ごとの被害の程度に合わせて、復旧計画を立てました。

早期復旧には、ショーケースやカウンターなど什器の移動や電気配線の確認・工事、窓やドアの改修整備など、加工・メンテナンス技術を持ったスタッフが、効率よく動くことが大切です。現場で臨機応変に判断し、作業できる対応力も求められます。

全店舗の状況把握と同時に、23,24日の週末で一気に作業を完結させるよう、福岡や鹿児島をはじめ日本各地の支店へ応援要請を行いました。LTSの各支店長やサービス事業を共に行っているビジネスパートナーが、復旧したばかりの九州新幹線やフェリーなどで熊本に駆けつけました。熊本県内からの応援部隊には自身

も被災し、避難所から通っている人もいました。余震が続くなか、5人一組の作業班を編成、熊本営業所を指令塔に、一部作業者は営業所に宿泊して、作業に当たりました。

14日の余震から10日後、23日午後には、延291名で139店舗の一時復旧を完遂し、ローソンの営業が再開されました。今や生活に欠かせないコンビニ。日常生活が戻ることは、災害復興において大切な一步です。2011年、東北大震災とは規模は違いますが、当時ローソンは営業復旧に1か月半かかったそうです。今回の迅速な活動に対してLTSは、株式会社ローソン開発本部から感謝状をいただきました。現在、LTSは災害時の復旧対応マニュアルを整備中です。

作業風景、復興本部の様子



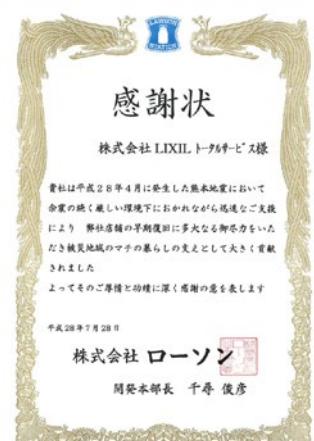
震災直後



復旧作業中



復旧作業終了



ローソンからの感謝状

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する
情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合



▶ 地域社会の中で

LIXILは世界各地で事業展開し、日本国内においても40の生産拠点、100を超える営業拠点が、それぞれの地域社会の中で事業活動を行っています。グローバルな視点で考えつつ、社会を構成する一員として、ビジネスにとどまらず、地域社会にしっかりと根付いて協働することが重要だと考えます。各地域には、そこで生活を営む市民の皆さまをはじめNPO、行政、教育関係者、地元企業など、いろいろな人たちがいます。街には歴史があり、その周りには山や川、海があったりします。事業を営む地域の中で、LIXILができるることについて考え、話し合い、実行しています。



地域との対話

各拠点で地域との対話「コミュニティ・ダイアログ」を開催しています。茨城支店の対話の概要を紹介します。

[more >](#)



自然環境の保全

三重、茨城、長野、千葉の各拠点従業員が中心となって、里山や森林など地域の豊かな自然生態系を守る活動を継続しています。

[more >](#)



復興支援

LIXILは、製品・資材提供、資金援助や人材派遣など、それぞれの要望に応じ、海外も含めた被災地の復興支援に取り組んでいます。

[more >](#)



地域との協働

ショールームでのイベント開催や工場見学のほか、事業拠点の従業員が地域の一員として、さまざまなコミュニティ活動に参加・協働しています。

[more >](#)



寄付、協賛、共催

アジアやアフリカに発展途上国向け簡易式トイレ「SATO」を寄付するプロジェクトやCO2削減活動を応援する「低炭素杯」の共催、トライアスロン交際大会への協賛を行っています。

[more >](#)

関連リンク [ビジネスパートナーとともに >](#)

販売を仲介する流通店や設計・施工に関わる工事店、メンテナンスなどのサービス関連会社、製品を届ける運送会社など多くのビジネスユーザーとパートナーシップを構築し、それぞれの拠点や地域で、さまざまな活動を行っています。

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合



LIXIL グループの工場、営業拠点、店舗では、地域住民の皆さまと従業員が対話する「コミュニティ・ダイアログ」を開催しています。まずはお互いを知り、商品・サービス、環境、防災、学校・教育、交通、自治会関係など幅広い分野で地域の課題について意見交換し、LIXIL が持続的に貢献できることを見出していくます。

2016 年度は、工場 1 拠点、営業 6 拠点、LIXIL ビバ 4 店舗でコミュニティ・ダイアログを実施しました。地域で活躍するさまざまなステークホルダーの方々に参加いただき、協働や交流、地域貢献について意見交換をしています。開催後はそれぞれの拠点が、それぞれのやり方で様々な活動に取り組んでいます。

茨城支店で行った対話概要を紹介します。

水戸市の地域の皆さまとの対話—北関東支社 茨城支店

2006 年に開設した水戸ショールーム。近隣の営業所も水戸市元吉田町に所在していますが、地域に親しまれるショールームを目指して、2017 年 2 月にコミュニティ・ダイアログを開催しました。

吉田地区自治実践会の会長さんをはじめ、小学校の教頭先生など、様々な立場で活動されている皆さまと意見交換しました。



日時	2017 年 2 月 23 日
開催場所	LIXIL 北関東支社 茨城支店（水戸営業所・水戸ショールーム）
社外ステークホルダー	吉田地区自治実践会 6 名（会長 1 名、副会長 3 名を含む） NPO 法人茨城県防災士会 理事 水戸市立吉田小学校 PTA 副会長 水戸市立吉田小学校 教頭 水戸市社会福祉協議会 支部長 茨城県立水戸特別支援学校 進路指導主事

ステークホルダー

エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

地域との対話

- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

株式会社 LIXIL からの参加者	北方 寛（北関東支社 支社長） 福田 隆一（茨城支店 支店長） 富田 裕紀（水戸営業所 所長） 高橋 優（水戸営業所 係長） 松山 麻紀子（水戸営業所） 磯野 拓也（水戸営業所 住宅市場課） 吉田 淳子（水戸営業所 キャンバサー） 稻見 真樹（水戸ショールーム マネージャー） 照山 瑞貴（水戸ショールーム チーフコーディネーター） 山本 みさ子（北関東支社 ショールームグループ グループリーダー） 畠山 彩（広報部 主査）
	ダイアログでの話題 地域行事など LIXIL が地域の一員として協力できることについて

※所属・役職名は、ダイアログ開催当時の名称です。

地域の皆さまからの LIXIL への期待

このエリアは少子高齢化が進み、自治会の加入率も年々低下しています。そんな中で LIXIL さんが「地域に貢献したい」と声をかけてくれました。当初は驚きましたが、このように企業も一体となって交流できることは嬉しいです。お祭りや防災訓練など、地域の行事にぜひ参加していただきたい。また、今回のことを見事例として、他の企業へも呼びかけたいと思います。



近隣には幼稚園があり小学校も多数ありますが、通学時の交通の安全面など、子どもたちは地域に見守られています。例えば LIXIL さんには子どもたちに何かあったときにショールームに駆け込めるよう、ご協力いただけることがあります。そのためにも、子どもたちには徐々に LIXIL さんを知ってもらうこと

が大切だと思います。小学校への出前授業などを実施していただきたいですね。

特別支援学校では、LIXIL さんと以前からご縁があり、子どもたちの送り迎えの集合場所のひとつがこのショールームとなっています。7割近い生徒が車椅子ですが、今後はショールームを休憩で使わせていただいたり、職場体験を通して、就職前に体験する機会もいただけるとありがたいです。

LIXIL 参加者のコメント

地域の皆さんからお話を伺って、望まれているのは今回の一度きりではなく、LIXIL の責任者が変わっても、継続的にお話ができる協力ができることが一番ではと感じました。社内で認識を合わせてお応えしていきたいと思っています。また、ショールームが入りにくいと感じられるという意見もありましたが、皆さんに親しみをもってもらえるショールームを目指して参ります。



[茨城支店のその後の活動は、「地域との協働」に掲載しています >](#)
[これまでの開催拠点はこちら >](#)

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する
- | 情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

地域との対話

- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

これまでの開催拠点一覧

各拠点での初回開催の結果を掲載しています。
開催後はそれぞれの拠点で、地域の声を取り入れた活動に取り組んでいます。
※組織名は、ダイアログ開催当時の名称です。

株式会社 LIXIL 営業拠点

2016 年度までに、44 拠点で実施。

<開催拠点一覧>

2016 年	北関東支社 茨城支店（茨城県水戸市）東京支社 城東支店（東京都足立区）中部支社 三河支店（愛知県豊橋市）中部支社 三重支店（三重県津市）関西支社 和歌山支店（和歌山県和歌山市）九州支社 宮崎支店（宮崎県宮崎市）
2015 年	北海道支社 道北支店（北海道北見市）東北支社 秋田支店（秋田県秋田市）東北支社 山形支店（山形県山形市）北関東支社 新潟支店（新潟県新潟市）北関東支社 長野支店（長野県長野市）千葉支社 千葉支店（千葉県成田市）神奈川支社 湘南支店（神奈川県相模原市）北陸支社 富山支店（富山県富山市）中部支社 静岡支店（静岡県浜松市）関西支社 阪奈支店（大阪府堺市）中四国支社 広島支店（広島県広島市）中四国支社 高知支店（高知県高知市）九州支社 鹿児島支店（鹿児島県鹿児島市）

2014 年

北海道支社 道東支店（北海道帯広市）東北支社 福島支店（福島県郡山市）北関東支社 群馬支店（群馬県高崎市）北関東支社 山梨支店（山梨県甲府市）埼玉支社 川越支店（埼玉県川越市）千葉支社 南千葉支店（千葉県木更津市）東京支社 東京南支店（東京都世田谷区）北陸支社 石川支店（石川県金沢市）北陸支社 福井支店（福井県福井市）中部支社 名古屋支店（愛知県名古屋市天白区）関西支社 滋賀支店（滋賀県草津市）関西支社 姫路支店（兵庫県姫路市）中国支社 山陰中央支店（鳥取県米子市）四国支社 徳島支店（徳島県徳島市）四国支社 松山支店（愛媛県松山市）九州支社 熊本支店（熊本県熊本市）九州支社 沖縄支店（沖縄県宜野湾市）

2013 年

北海道支社 札幌支店（北海道札幌市東区）東北支社 青森支店（青森県青森市）埼玉支社 熊谷支店（埼玉県熊谷市）千葉支社 船橋支店（千葉県船橋市）東京支社 立川支店（東京都立川市）中国支社 山口支店（山口県山口市）四国支社 高松支店（香川県高松市）

2012 年

横浜港北（神奈川県横浜市都筑区）

[2015年度詳細\(代表拠点のみ\) >](#) [2014年度詳細 >](#)

[2013年度詳細 >](#) [2012年度詳細 >](#)

ステークホルダー
エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

株式会社 LIXIL 生産拠点

2016 年度までに、40 工場で実施。

<開催拠点一覧>

2016 年	常滑東工場（愛知県常滑市）
2014 年	栗沢工場（北海道岩見沢市）須賀川工場（福島県須賀川市）前橋工場（群馬県前橋市）粕川工場（群馬県前橋市）深谷工場（埼玉県深谷市）立野工場（富山県高岡市）可児工場（岐阜県可児市）常滑東工場（愛知県知多郡東浦町）彦根工場（滋賀県彦根市）上野緑工場（三重県伊賀市）伊賀上野工場（三重県伊賀市）社工場（兵庫県加東市）沖縄工場（沖縄県宜野湾市）
2013 年	一関工場（岩手県一関市）小山工場（栃木県小山市）桐生工場（群馬県桐生市）土浦工場（茨城県土浦市）筑波工場（茨城県つくば市）大和工場（茨城県桜川市）石下工場（茨城県常総市）岩井工場（茨城県坂東市）横浜工場（神奈川県横浜市緑区）小矢部工場（富山県小矢部市）伊吹工場（岐阜県不破郡垂井町）東濃工場 明智製造（岐阜県恵那市）半田工場（愛知県半田市）知多工場（愛知県知多市）榎戸工場（愛知県常滑市）大谷工場（愛知県常滑市）久居工場（三重県津市）名張工場（三重県名張市）青山工場（三重県伊賀市）熊山工場（岡山県赤磐市）尾道工場（広島県尾道市）佐賀工場（佐賀県多久市）鹿島工場（佐賀県鹿島市）有明工場（熊本県玉名郡長洲町）
2012 年	下妻工場（茨城県下妻市）藤花工場（茨城県下妻市）

[2014 年度詳細 >](#)

[2013 年度詳細 >](#)

[2012 年度詳細 >](#)

※沖縄工場は、沖縄支店と合同開催。概要是営業拠点 2014 年度詳細をご覧ください。

株式会社 LIXIL ビバ 店舗

2016 年度までに、16 店舗で実施。

<開催拠点一覧>

2016 年	スーパービバホーム 那須塩原店（栃木県那須塩原市）スーパービバホーム 深谷店（埼玉県深谷市）スーパービバホーム 狹山日高インター飯生店（埼玉県飯能市）スーパービバホーム 和泉中央店（大阪府和泉市）
2015 年	スーパービバホーム仙台中山店（宮城県仙台市）スーパービバホーム高崎店（群馬県高崎市）スーパービバホームさいたま新都心店（埼玉県さいたま市）
2014 年	スーパービバホーム新名取店（宮城県名取市）スーパービバホーム加須店（埼玉県加須市）スーパービバホームちはら台店（千葉県市原市）スーパービバホーム岐阜柳津店（岐阜県岐阜市）スーパービバホーム寝屋川店（大阪府寝屋川市）
2013 年	スーパービバホーム手稻富丘店（北海道札幌市手稻区）スーパービバホーム清田羊ヶ丘通店（北海道札幌市清田区）スーパービバホーム伊丹店（兵庫県伊丹市）
2012 年	スーパービバホーム岩槻店（埼玉県岩槻市）

[2014 年度詳細 >](#)

[2013 年度詳細 >](#)

[2012 年度詳細 >](#)

※ [LIXIL ビバの公式ホームページ](#) でも活動概要を紹介しています。

ステークホルダー

エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

そのほかの開催事業会社

株式会社川島織物セルコン

2015年

市原事業所（京都府京都市左京区）

地域社会の中で

地域との対話

- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合



ステークホルダー
エンゲージメント

お客様のために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | **自然環境の保全**
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

地域社会の中で
自然環境の保全

LIXILは地域の豊かな自然を守り地域社会に貢献するため、行政やNPO、森林組合などと協働し、森や里山の環境を保全するボランティア活動「森でeこと（もりでいいこと）」に取り組んでいます。活動は三重県、茨城県、長野県の3ヵ所を拠点に、春と秋の年2回実施しています。各県で働く従業員を中心に、これまでおよそ3,800人が参加し、活動を通して地域と交流しながら身近な自然を守ることの大切さを学んでいます。

また、千葉県の野田事業所と七光台事業所では、2013年から、田んぼでの米作りを通して、多様な生き物の大切さを学ぶ「野田んぼ いきもの教室」を活動しています。

活動の狙い

LIXILのあらゆる事業活動は、自然からのさまざまな資源の供給と生態系の浄化作用・調節作用（生態系サービス）を基盤としています。私たちは、木材をはじめとする資源調達や製造場面での配慮はもちろん、自然環境への負荷を少しでも軽くするため、事業所近辺の生物多様性の場である地域の里山や森林の保全活動も行っています。

この活動は、生物多様性の維持、地球温暖化防止だけでなく、地域の水源の保全や、山崩れなどの災害防止にもつながります。こうした活動に取り組むことによって、

従業員一人ひとりの地域コミュニティへの参加の推進や、社会意識の向上を図っています。

三重県での活動「森で e こと」

三重県の活動は2008年、県が進める「企業の森」に賛同し、三重県、伊賀市と共に森林保全協定を結んだのが始まりです。県内には、上野緑工場、伊賀上野工場、名張工場、久居工場といった5つの生産拠点があります。



2015年度からは県内の森林施業認定NPO法人「森林の風（もりのかぜ）」との協働を開始し、森林保全活動の企画・技術指導を受けています。「森林の風」は荒廃する水源の森を守るために、"施業のセミプロ"を目標に2005年に設立した団体で、大手電力会社や食品会社など11社と協働で森林保全活動を行っています。

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | **自然環境の保全**
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

LIXILは、森林組合から 2.76ha の土地を借り受け、植樹、獣害防止ネットの設置の活動に、工場を中心に従業員やその家族が参加し、環境保全への意識を高めています。

[三重県「企業の森」公式サイト >](#)
[森林施業認定 NPO 法人「森林の風」公式サイト >](#)

森林施業 認定 NPO 法人「森林の風」 代表 瀧口邦夫

2015 年度から LIXIL と森林環境保全活動を共に進めています。我々は荒廃する水源の森を守るために、" 施業のセミプロ " となることを目標とする団体です。

LIXIL との「森で e こと」の活動は、三重県だけではなく、大阪府の水源の森を守ることにもつながっており、活動の広がりや影響の拡大を感じます。森林環境保全活動は、草木の名前を覚えることから始まり、枝打ち、間伐など、作業は実に多岐にわたります。

人手が掛かることも多く、企業と協働することで多くの人々の手が森林に入り、短時間で作業を進めることができます。また樹木や自然生態系に興味を持ってもらう機会にもなり、意義を感じています。

近年は、森に关心を持つ企業や人が増え、とてもうれしく感じています。今後も安全な活動を最優先に、共に汗をかき、共に学びながら森林の活動の中で達成感を共有したいと考えています。



茨城県での活動「森で e こと」

茨城県には、筑波工場をはじめ、石下工場、岩井工場、下妻工場、土浦工場、藤花工場、大和工場といった 7 つの生産拠点があります。

2009 年、認定 NPO 法人「宍塙の自然と歴史の会」(以下、「宍塙の会」)と協働し、土浦市宍塙にある里山の保全を開始しました。



「宍塙の会」は、小川、ため池、雑木林、田んぼなど、多様な環境が存在する 100ha ほどの宍塙の里山を、未来に残す活動をしている団体で、日本ユネスコ協会連盟から「プロジェクト未来遺産」に登録されるなど、国内で高く評価されています。宍塙は、オオタカやフクロウなどの大型の鳥類やアカガエル等の両生類、小さな昆虫などが生息する豊かな自然が残る里山で、周囲には宍塙古墳群や貝塚など歴史的にも重要な場所です。

LIXIL は、雑木林の下草刈りや谷戸と呼ばれる湿地の水源や水路の整備、在来種にとって脅威となる外来種の撤去など、里山保全で特に人手が必要な部分をボランティアで行っています。

[認定 NPO 法人「宍塙の自然と歴史の会」公式サイト >](#)

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | **自然環境の保全**
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

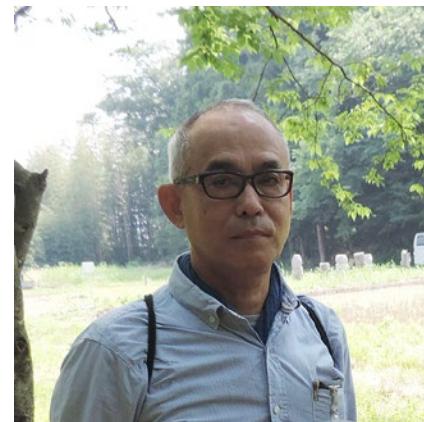
未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

株式会社 LIXIL ビバ
CSR 推進室 大川 里志



温暖化防止という視点だけではなく、より具体的にこの里山のテーマは何か。活動にどれだけの人がどのように参画できるのか。といった切り口でも、活動を捉えています。そして、店舗において地域との持続的な関係を構築できるのと同様に、森でeことを通じて、より深く地域に入っていければと考えます。

まだ2回目の参加で、わからないことが多いですが、里山保全と同時に、会社の枠を超えたコミュニケーションも一緒に追究したいと思います。

長野県での活動「森でeこと」

長野県では「森林の里親促進事業」に参加し、2009年から下伊那郡阿智村で森林保全活動を行っています。約16haの森を借り受け、間伐、整理伐を実施し、1,400mにわたって作業道を完成させました。作業道をメンテナンスしたり、間伐や炭原木の切り出しを行うなど、森林整備を中心に活動を継続しています。



[長野県「森林（もり）の里親促進事業」公式サイト >](#)

千葉県での活動「野田んぼ いきもの教室」



千葉県にある野田事業所と七光台事業所では、田んぼでの米作りを通して、多様な生き物の大ささを学ぶ「野田んぼ いきもの教室」を、千葉県野田市の水田型市民農園（野田市江川地区）で2013年度から活動しています。

野田市は、国の特別天然記念物「コウノトリ」の野生復帰を目指して、2012年12月に多摩動物公園からコウノトリのつがいを無償で譲り受け、市民農園に併設する施設で飼育を開始しました。2015年より3年連続合計6羽を試験放鳥しており北は東北、西は四国まで飛んで行っています。

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに



地域社会の中で

- | 地域との対話
- | **自然環境の保全**
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合



LIXILは、自然に親しみ、森や木を育む気持ちや活動継続の大切さを、次世代へ伝

えています。参加を機に、環境問題や社会貢献活動に興味を抱き、活動を始める従業員も現れています。何年もかけて育つ樹木のように、長く将来にわたって実を結び続けることを目指して、一つ一つの活動を積み重ねてまいります。

「森でeこと」の最近の活動について

ニュースリリースも合わせてご覧ください。

[2017年春 >](#) [2016年秋 >](#) [2016年春 >](#) [2015年秋 >](#)
[2015年春 >](#) [2014年秋 >](#) [2014年春 茨城 >](#) [2014年春 長野 >](#)

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | **復興支援**
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

地域社会の中で

➤ 復興支援

2011年3月11日、東日本大震災から6年半が経ちました。復興の歩みは進んでいますが、今も仮設住宅に暮らし、故郷へ帰ることなく亡くなった方もたくさんいらっしゃいます。昨年2016年4月には熊本地震が発生しました。地震や火山噴火ばかりではなく、地球温暖化、気候変動が起因とされる異常気象、大型台風や集中豪雨、豪雪などが毎年のように日本列島を襲い、土砂災害や水害などを引き起こしています。

LIXILは、生活の基盤である住まいが一日も早く修復され、人びとが暮らす街が元気を取り戻し、復興されることを願い、製品の寄贈やNPOへの寄付、人材派遣など、被災地の要望に応じた支援活動を実施しています。

製品寄贈

住まいや各施設の建材や設備を整備することは、生活の基盤を整えることにつながります。安心して快適に過ごせる住まいづくり、公共空間づくりに少しでも役立つようLIXIL製品を寄贈しています。

みんなの家移築—仙台市宮城野区新浜

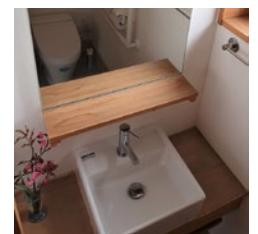
東日本大震災の後、東北地方には15棟の「みんなの家」が建てられましたが、2017年4月17日開館した「新浜みんなの家」は、2011年10月に竣工した第1号の「みんなの家」を移築したものです。外壁は熊本の「みんなの家」のように黒く塗られていますが、内装は当時の姿のまま。震災メモリアル施設としての側面から資材等を可能な範囲で再利用しており、LIXILの手洗器も活用されています。LIXILはこの機に新しいトイレSATISを寄贈しました。



新浜みんなの家 外観



内観



手洗器

みんなの家—熊本 益城町テクノ仮設団地

LIXILは、「熊本地震で被災された方々に、少しでも安らぎを感じていただきたい」という想いのもと、熊本県・くまもとアートポリスが進める「みんなの家」プロジェクトの趣旨に賛同し、『益城町テクノ仮設団地 本格型みんなの家』の建設に協力し、窓やトイレ、キッチンなどのLIXIL製品を提供しました。(2016年12月竣工)

[みんなの家 公式サイト >](#)

[ニュースリリースはこちら >](#)



みんなの家 外観



内観



みんなのトイレ

ステークホルダー
エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | **復興支援**
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

みんなの遊び場プロジェクト in 南相馬

LIXILは、「子どもたちを笑顔にしたい、子どもの笑顔にふれた大人たちも元気にしたい」という活動趣旨に賛同し、『南相馬 みんなの遊び場』の建設に協力し、窓やドア、トイレ、手洗い、タイルなどのLIXIL製品を提供しました。(2016年6月竣工)

[みんなの遊び場プロジェクト in 南相馬 公式サイト >](#)
[ニュースリリースはこちら >](#)



みんなの遊び場 外観



手洗い



トイレ

寄付、協賛

[IPPO IPPO NIPPON プロジェクト](#)への継続支援など、一日も早い復興を後押しし、街や生活する人たちを元気にすることを目指すプロジェクトや、有志による活動、NPO・NGO団体などへの寄付を通して、震災からの復興を応援しています。

fukushima さくらプロジェクト

復興を願い、福島や東北、さらには全国を応援することを目的とした「fukushima さくらプロジェクト」に協賛しています。さらに「福島プロジェクトマッピング 2016 はるか～白河花かがり～」のビジュアルイメージを焼き付けたフォトタイルを制作し、白河文化交流館「コミネス」寄贈しました

[fukushima さくらプロジェクト 公式サイト >](#)
[ニュースリリースはこちら >](#)



白河文化交流館「コミネス」
プロジェクトマッピングの様子



フォトタイルの贈呈。
左：白河市長 鈴木和夫氏、右：東北支社
福島支店長 濱戸桂

ステークホルダー
エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | **復興支援**
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

人材派遣

寄付や製品・資材の提供にとどまらず、従業員自身が作業者として汗を流したり、スキルを生かして地域に貢献する活動も行っています。従業員自身の意識変革や啓発につながる貴重な体験となっています。

東北未来創造イニシアティブへの出向

2013年4月より4年間にわたり、2名の従業員が東北未来創造イニシアティブへ出向し活動しました。復興と地域の未来創造を担う人材育成事業「人材育成道場」の伴走者として、また市民や行政と手を携え大船渡市の復興計画の具現化に携わってきました。



[詳細はこちら >](#)

[東北未来創造イニシアティブ 公式サイト >](#)

東日本大震災への主な復興支援

- | | |
|----------------------------|---|
| 社員参加による
チャリティイベント
協賛 | SMILE AGAIN ~YELL from KASHIMA (2011年)
第2回アイアンマン70.3セントレア常滑ジャパン (2011年)
キッズワークショップカーニバル (2012年～)
LIXIL ショールーム高松チャリティコンサート (2013年、
2014年) など |
|----------------------------|---|

SMILE AGAIN ~YELL from KASHIMA (2011年)
第2回アイアンマン70.3セントレア常滑ジャパン (2011年)
キッズワークショップカーニバル (2012年～)
LIXIL ショールーム高松チャリティコンサート (2013年、
2014年) など

チャリティイベント 協賛	みちのくフォトプロジェクト (2011年) 東北六魂祭 (2012年、2013年) VOICES meets Romantic Beat -Pray for Moon- (2012年) fukushima さくらプロジェクト (2014年～) など
人材・ボランティア 派遣	東北未来創造イニシアティブ (2013年～) 住まいの修繕 ボランティア (2014年)
製品寄贈	石巻市北上町白浜復興住宅プロジェクト 工学院大学 (2011年) みんなの家 伊東豊雄プロジェクト (2011年～14年) 「宮城野区みんなの家」「岩沼みんなの家」「陸前高田みんなの家」「釜石市商店街みんなの家」「釜石みんなの広場」「宮城野区新浜みんなの家」移築 (2017年) 東松島市立矢本東保育所 セーブ・ザ・チルドレンジャパン (2012年) 石巻市鹿妻コミュニティセンター (財) フェール城桜協会 (2012年) 福島県南相馬市小高区塚原行政区集会所 (2014年) 子どもの村東北 NPO 法人 SOS 子どもの村 (2014年) 女川温泉ゆぽっぽ タイルアートプロジェクト (2014～15年) みんなの遊び場プロジェクト in 南相馬 (2015～16年) 馬と暮らす曲がり家 一般社団法人三陸駒舎 (2015～16年)
寄付・協賛	IPPO IPPO NIPPON プロジェクト (2011年～) NGO ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン (2014年)

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | **復興支援**
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

そのほかの災害復興支援

2016年	熊本地震	支援金、社内募金、 製品の無料点検
2015年	ネパール中部地震	支援金
	台風18号 関東・東北豪雨	支援金、社内募金
2014年	広島市土砂災害	社内募金、支援物資、 ボランティア派遣
2013年	フィリピン台風ハイエン（台風30号）災害	支援金、支援物資
2011年	タイ洪水被害	義援金

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | **復興支援**
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

東北未来創造イニシアティブへの出向を終えて

「東北未来創造イニシアティブ」は、「東北の東北の手による東北再生、それを支える全国の民間有志」という形で、力を合わせ ALL JAPAN で日本の未来づくりに挑戦しています。人づくり、街づくり、産業づくりを通じて、日本の再生を目指す活動に LIXIL は共感し、4 年間に渡って人材を派遣し、活動を支援しました。このイニシアティブでは、「人材育成道場」「復興計画の具現化」「東北未来創造会議」に取り組んでいますが、LIXIL の高橋、村田の 2 名は、復興と地域の未来創造を担う人材育成事業「人材育成道場」の伴走者として大船渡の地で活動していました。

高橋 学 出向期間【2013年4月～2015年3月出向満了】 LWTJ 営業統括部 東北営業部 主査



大船渡市の復興のため、まずは何が課題となるか、何を復興のテーマとするか等、市や民間のリーダーの仲介役となり議論を重ねてきましたが、イベントを開催しても思うような成果につながらず、試行錯誤の繰り返でした。ただ、何をするにも地元の人が考え、行動することが非常に重要なことから、人材育成を最も重視して取り組んできました。「人材育成道場」の塾生のメンタリングを行い伴奏してきましたが、非常に難しい立場でした。塾生たちは経営者として、また地域のリーダーとして、自らの生き方を自問しながら、未来に向けたビジョンを事業構想に落としこみ、最後に地域住民の前で挑戦に向けた決意を表明します。私は塾生の意識改革につなげるため、本気で彼ら、彼女らに向き合い続けました。卒塾生たちは地域のリーダーとなり、復興計画のさまざまな取り組みを推進しています。

成果のひとつは、震災から 5 年が経過して 6 年目に入った 2017 年 3 月、三陸における人の強さや優しさ、および復興の様子を見に来て欲しいという想いを込めた感謝祭「さんりくるっと」を、釜石地区、大船渡地区、気仙沼地区の卒塾生たちが実行委員となって開催したことです。

私が担当した塾生とは最終的には家族のような間柄になり、かけがえのないものを得ることができました。



企業や各団体の復興支援の取組を紹介するパネル展示



地元の高校生の太鼓演奏

現在、被災地は建造物などのハード的なものの復興は進んでいるように見えますが、ソフト的なものはまだまだこれからです。志のある若い方もいますが、外からもしっかりつながって、サポートしていきたいと思っています。

個人的には地方の衰退や空き家の増加など、コミュニティの弱体化への関心が高いですが、企業人としても、豊かな住生活を提供する企業として地域社会に目を向け、協働し、意義のある活動ができるのではと考えています。少しづつつながりを増やし、継続していくことで社会に貢献していきます。



現在の大船渡市

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | **復興支援**
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

村田 茂則 出向期間【2015年4月～2017年3月出向満了】

東北支社 岩手支店 盛岡営業所 住宅市場課 主任

高橋が復興計画の準備段階として活動基盤を作りつつ、2015年4月からその後を引き継ぎました。

人材育成に関わりながら、大船渡市の地域復興のテーマとして決まった「さかなグルメのまち大船渡による地域復興」に取り組むにあたって、官民連携に注力しました。



南阿蘇で開催したさんま焼きの様子

具体的には本州最大の水揚げを誇る「さんま」を通して、一部の地域の有志と行政を結びつけ、一緒になって活動できる仕組みづくりを進めました。私たちが、その場に立ち会い、間に入ってお手伝いをさせていただきましたが、当然ながら街の主役は市民です。今後、継続していくためにも一人ひとりが「自分たちでもこんなことができる」と意識を持ってもらうためにワークショップをはじめ、さまざまな活動を地元と方々と一緒に実行してきたことが一つの成果です。

例えば、地元の方の経験・意見に基づき、子どもたちに「さんまのまち」と認識してもらうため、さんまの大漁旗のデザインをコンテストで募集し、たくさんの絵を描いてもらったり、さんまの直送便を各地に配送する際に添える手紙を、子どもたちに書いてもらったりしました。さまざまなことを感じて、考え、自分たち



子どもたちのワークショップの様子

で解決できるものに取り組めると、大変おもしろいと思いますし、力も發揮できるものだと感じています。

街を盛り上げるために頑張る地元の方々の背中を、微力ながら押させていただきましたが、活動を通して自分自身も成長できたと思います。特に、コーチングやメンタリングの部分で、ただ教えるのではなく、その人がやりたいことを引き出せるようなお手伝いを経験してきました。今後は社内でも自分の経験を役立て、人脈を活かして社内外をつなげたり、対話の場づくりに関わっていきたいと考えています。



三陸大船渡さんままつりギネス達成、記念撮影

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | **地域との協働**
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合



地域社会の中で
▶ 地域との協働

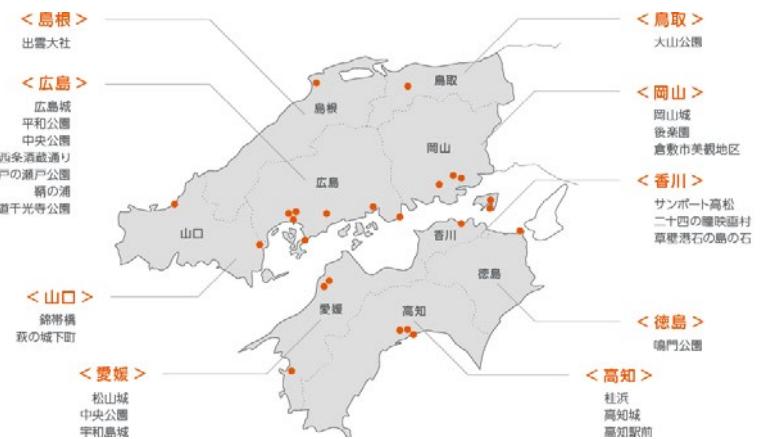
LIXIL グループの各拠点では、様々な形でステークホルダーと協働しています。地域の一員として求められていることに対してコミュニケーションを重ね、貢献していくことで、地域の皆様にも喜ばれています。ここでは、中四国地域で展開している観光地トイレの清掃や、茨城支店で行った「地域との対話」での要望を受けて実現した活動、半田工場や新潟支店で継続して行っている活動を紹介します。

中四国観光地トイレ おもてなし一斉清掃－中四国支社

中四国地域の 8 支店各営業所では、中四国地域を代表する観光名所 24 エリアの公共施設のトイレを清掃する活動「中四国観光地トイレ おもてなし一斉清掃」を 2017 年 9 月 4 日に実施しました。

今年で 4 年目となる活動ですが、トイレを扱う企業として、近年、多くの人々が訪れる観光地を清潔にしてお迎えしたいという思いで活動しており、社外にも共感が広がっています。

総勢 1,134 名で実施しましたが、そのうち約 4 割が建築関係者さまをはじめ、行政や学校等の地域からの協力者です。



香川県では、学校の社会貢献活動の一環として、清掃活動にご賛同いただき、小学生や高校生とトイレ清掃を実施しました。社員の清掃方法の説明に真剣な表情で耳を傾ける子どもたちが印象的でした。

高知県では市役所の皆さんや、地元のプロ野球独立リーグの方々にも清掃活動にご参加いただきました。

各地で訪れる観光客の方々に興味を持っていただき、「ご苦労様」「LIXILさんはこのような活動をされているのですね」などお声掛けいただく場面もありました。

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する
- | 情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | **地域との協働**
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

トイレ清掃では便器の裏側や洗面台の下など、目の届かないところまで丁寧に磨き、周辺の草刈りなども行いました。

ビジネスパートナーや学生のみなさんはじめ、地域生活者の皆さんと一緒に汗を流し、ともに気持ち良い達成感を得られました。今後も地域に根差した活動を通じて、社会に貢献していきます。

*この取り組みはユニバーサル社会の実現に向け、清掃活動を通じて“おもてなし”的心を育む内容として、東京 2020 公認プログラム（街づくり）に認証されています。



また香川県からは、香川県内でのおもてなし清掃活動を含む、一連の活動が高く評価され、「観光香川おもてなし運動県民会議」の会員である行政機関、観光施設、経済団体、住民団体、大学、マスコミ等 118 団体より推薦のあった約 40 件の「おもてなし活動」から、「第 1 回 観光香川おもてなし大賞」を受賞し、香川県知事より表彰を受けました。

[ニュースリリースはこちら >](#)

[清掃活動からつながった小豆島の活動 >](#)

[ビジネスパートナーとともに「中四国観光地トイレ おもてなし一斉清掃」>](#)

防災パトロールカー出陣式を実施—北関東支社 茨城支店

2017 年 2 月に開催したコミュニティ・ダイアログをきっかけに、自治会から、地域の防犯と子どもたちの安全安心を目的とした活動の提案がありました。話し合いをすすめ、LIXIL の営業車を防犯パトロールカーとして「子どもを守る 110 番の車」のステッカーを貼ること



になりました。



その後、4 月 24 日に水戸ショールームで出陣式を開催しました。式には水戸市長や水戸警察署長、近隣の小中学校の校長先生、住民の方々など約 100 名が出席しました。全員で子どもたちを守っていくことを宣言し、ステッカーの貼られた営業車に従業員が乗り込み、35 台が出陣しました。

不審者などを発見した際、市や警察署に情報提供をしていきます。

LIXIL が地域の一員としての活動を通して、地域に根差した企業を目指します。

[茨城支店のコミュニティ・ダイアログは「地域との対話」に掲載しています >](#)

地域防災に貢献—半田工場



愛知県半田市にある半田工場は、1964 年から操業しており、浴室で使われる水栓金具などを主に製造しています。

半田工場ではこれまで、地域と対話する『コミュニティ・ダイアログ』をはじめ、交通安全の立哨やインターナンシップの受け入れ、障がい者雇用や半田市教育委員会のゲストティーチャー制度を利用した出前授業など地域社会との関わりを持ちながら、オープンな工場を目指し活動を継続してきました。

特に、ダイアログで近隣保育園からの「職員が女性ばかりで災害時に避難できるか不安に感じています」という声に応える形ではじまった防災訓練への協力は 2017 年 5 月で 4 回目となります。

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | **地域との協働**
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

「震度 7」「津波警報」を想定し、同地区の安藤製作所の皆さんと一緒に、高台の公園まで園児約 200 名を避難させる合同訓練に 4 名が参加。今回のメンバーは乳児を含めた訓練は初めてでしたが、暑さのなかで無事に避難を完了しました。

保育園からは「急な坂道を乳児を乗せた乳母車を押して避難するのは女性だけでは難しいため、本当に助かります」とのお声を頂いています。

今回初めて訓練に参加したメンバーからは「実践的な訓練で大変さがよく分かりました。避難する子どもたちを見て責任感も生まれました」との感想が聞かれました。

今後も引き続き、地域との関わりを持つことで社会からの信頼を獲得していきます。

ショールームでの職場体験の実施—北関東支社 新潟支店



新潟支店は、営業所員 80 名ほどの中規模の営業拠点です。2007 年からショールームとして開設しており、12 名のショールームスタッフが工務店や設計者の方、製品を購入予定のお客さまの接客を行っています。

2015 年の地域と対話する「コミュニティ・ダイアログ」をきっかけに、地域とコミュニケーションを重ね、その年の 11 月より近隣の女池小学校 6 年生を対象とした『職場体験学習』を受け入れ、今回で 2 回目の実施となります。

ショールームでの開館前の挨拶の練習や清掃、開館中の受付業務やお客様への呈茶、商品の模擬提案などを体験してもらいました。

後日、子どもたちからの感想文には「体験してみて、仕事は大変だと思いました

が、笑顔が大切だということがわかりました。」「工夫したところは、(模擬提案で)お客様にどこを読んでいるか分かるよう指さしを行いました。説明することが苦手でしたが得意になりました。」とあり、対応した従業員も元気をいただきました。

通常ショールームの様子を内側から見ていただくことは殆ど無いため、普段とは違う視点で LIXIL を知っていたらしくでき、また指導するスタッフにとっても改めて業務を確認する良い機会となりました。

小学生や中学生を対象とした職場体験は他の地域のショールームでも行われていますが、子どもたちが一生懸命取り組む姿勢が従業員にも良い刺激になっています。今後も職場体験を通じて地域に貢献していきます。

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | **地域との協働**
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

おもてなし清掃活動からつながった小豆島での活動一 中四国支社 東四国支店

高松市の中心部に所在する東四国支店高松拠点は、ショールームと併設している所員約150名ほどの拠点です。

毎年、おもてなし一斉清掃で訪れる小豆島町の活性化に貢献したいという思いから、町役場や小学校と協働し企画した活動を紹介します。

2017年6月、小豆島町苗羽小学校4年生と5年生合わせて37名の児童に出前授業「トイレが世界を救う！」を実施しました。トイレの歴史や世界のトイレ事情など、クイズや動画を通して楽しく学んでもらいました。特

に清潔で安全なトイレが使えない生活をしている世界の状況を、自分たちの身近な小豆島や苗羽小学校に置き換えて考える場面では、真剣な表情で一生懸命聞き入っていました。

この授業を受けてもらった5年生の児童にはその後「未来の地球にぼくたち・わたしたちが出来る事！」というテーマでポスターを描いてもらい、7月にその作品をLIXILショールーム高松に展示し、子どもたちや保護者、先生方をショールームに招待しました。

展示作品から好きな作品を子どもたちや先生、小豆島町職員の方、社員、ショールーム来館のお客さまに投票してもらい、LIXIL賞を含め、5点の作品に優秀賞を贈りました。作品はフォトタイルにして9月4日に受賞者に寄贈しました。

また、招待当日はLIXIL社員が働く姿を見てもらい、ショールームで各商品を紹

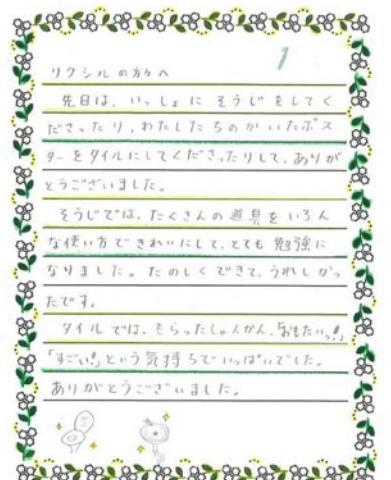
介しました。見学後には商品を探すクイズを実施し、楽しみながら、製品の環境性能や機能性に触れてもらう良い機会となりました。「こんなお風呂がほしい！」という声や製品の機能に驚く声も聞こえて、賑やかなイベントとなりました。



9月4日は、中四国支社を挙げての「おもてなし清掃」の開催日で、LIXIL苗羽小学校の児童たちも、小豆島の二十四の瞳映画村のトイレ掃除に取り組みました。児童からは、「掃除ではたくさん道具を色々使って、キレイになって、とても勉強になりました」という感想もありました。

清掃後、映画村内の木造小学校教室でポスター優秀賞5点をフォトタイルにした「フォトタイル贈呈セレモニー」を執り行いました。贈呈式では映画村の代表らの挨拶と合わせ、ゆるキャラのことちゃんも登場し盛り上がりました。タイルを受け取った子どもたちは、ずっしりとした重さに驚くとともに、色鉛筆の風合いもきれいで再現されたタイルに見入っていました。

また、5年生の児童は、年間を通して壺井栄さんの名作「二十四の瞳」を学んでいます。今回、校長先生の発案で、授業を通して小説の中から子どもた



ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに



ちが一節を選び、その言葉を芸術家が描き文字で表現し、それをフォトタイルにするという、「文学を題材にした学びとアートとのつくりのコラボレーション」が実現しました。



児童たちが選んだ11枚の小説の一節と、映画村で撮影した写真を組み合わせた12枚のタイルが、10月小学校に寄贈されました。贈呈式では、LIXIL社員が編集した動画を投影し、子どもたちは自分の映像が映ると明るく笑っていましたが、時折真剣な表情で今までの活動を見ててくれていました。校長先生からは「これまでの活動を通じてLIXILさんのどんな事も皆さんのが児童と向き合って一緒にやって取り組む姿勢に暖かな社風を感じました。」と嬉しいお言葉を頂きました。

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | **地域との協働**
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合



終了後、LIXILの社員たちに向けて、児童や先生からお礼や感謝の言葉をたくさんいただき、歌を歌って温かく見送ってくれました。一連の活動は小豆島町や小学校など地域の皆さんのご協力があっての活動です。東四国支店では今後も地域に根ざした活動を継続し、小豆島町の全小学校への展開を計画しています。

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに



地域社会の中で

寄付、協賛、共催

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | **寄付、協賛、共催**

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

日本の各地域では、自然災害ばかりでなく、少子・超高齢化とともに勞働人口の減少をはじめ、さまざまな社会課題が顕在化してきています。

LIXILは、災害復興支援にとどまらず、コミュニティの活性化や地域での環境負荷低減活動など、地域社会のための活動を行っている団体や教育機関などに、寄付、協賛などの支援を行っています。

そして世界の課題にも目を向け、日本から世界の衛生問題の改善に向けて、できることから始めています。さまざまなステークホルダーと協働して進めるそれぞれの地域社会の改善が、持続可能な社会づくりにつながっていきます。

みんなにトイレをプロジェクト

LIXILは2017年4月から日本国内で、一体型シャワートイレ販売1台につき、開発途上国向け簡易式トイレ「SATO」を1台アジアやアフリカの国々に寄付する「みんなにトイレをプロジェクト」を実施しています。

これは世界人口の3人に1人、実に24億人の人たちが、安全で衛生的なトイレを使えない暮らしをしているという現状を、日本国内のビジネスパートナーやお客さまに幅広く知っていただき、世界の衛生課題への関心を深めてもらうことを意図したものです。LIXILは「2020年までに1億人の衛生環境を改善する」という目標を立てて、この問題に取り組んでいます。日本の皆さんのが、世界の不



日本で一体型シャワートイレを1台購入



アジアやアフリカで
SATOを1台寄付



簡易式トイレSATO

衛生なトイレ環境について理解の輪が広がっています。

購買行動を通じたみなさんの善意を、不衛生なトイレ環境の改善が急がれる地域に届けていくことで、持続可能な社会へ貢献していきます。

現在進行形の活動であり、実際の設置はこれからとなりますが、国際NGOとの協力体制のもと、確実に支援を実施し、その状況を報告していきます。

[\[みんなにトイレをプロジェクト\] スペシャルサイト >](#)

[LIXIL CR 戦略 世界の衛生環境
の改善 >](#)

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

低炭素杯 2018 共催

「低炭素杯」は、低炭素社会の構築に向けて、学校・家庭・有志・NPO・企業などの多様な主体が、全国各地で展開している地球温暖化防止に関する活動を報告し合うことでノウハウや情報を共有し、連携の輪を広げていく活動です。LIXILは低炭素杯の理念に深く共感し、2011年の初回から共催しています。



2017年2月開催の「低炭素杯 2017」では、モトスミ・ブレーメン通り商店街 & グリーンコンシューマーグループかわさきの取り組み「モトスミ・ブレーメン通り商店街のエコ調査隊」を、LIXIL 最優秀エコライフ活動賞に選出しました。この活動は、商店街事業主、市民団体、学校が連携し、買い物を通して環境配慮行動を普及させるものです。商店のエコ活動を市内の小学生が調査分析することで、相互に啓発しあう持続的な活動となっていることを高く評価しました。

[\[米子工業高等専門学校\] >](#)
[低炭素杯公式サイト >](#)
[ニュースリリースはこちら >](#)

トライアスロン国際大会

アイアンマン 70.3 セントレア知多半島ジャパン特別協賛

スポーツを通じた地域への貢献を目的に「アイアンマン 70.3 セントレア知多半島ジャパン」に毎年メインスポンサーとして協賛しています。今大会は2017年6月11日に開催され、国内外から集まったアスリートたちが、「アイアンマン 70.3 世界選手権」の出場権をかけ、ハイレベルなレースを展開しました。LIXILからは選手や運営・応援のボランティアとして200名を超える従業員が大会を盛り上げました。

[アイアンマン 70.3 公式サイト >](#)
[ニュースリリースはこちら >](#)



ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する
- | 情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

寄付・協賛

LIXILは災害復興支援や文化的な活動への協賛のほか、CR戦略の柱の一つである衛生課題解決のための寄付や、ユニバーサルデザイン、IoTなど、持続可能な開発を視野にいれた研究開発機関などへの支援を行っており、寄付や協賛の規模や範囲は多岐にわたります。

たとえば、国内拠点では、コミュニティの活性化や防犯・安全対策に取り組む地域の商工会や自治会など各種団体に、拠点の状況を踏まえて加入し、協働しています。具体的には、地方都市でのお祭りや町おこしなどのイベント協賛・寄付など、小さな規模での活動も行われています。

一方、高額寄付・協賛についてはCEOが委員として出席する「寄付行為およびコンサルティング等審査委員会」で目的・用途とその成果を厳しく審議し、寄付・協賛先を選定しており、LIXILの資産を適切に、効果的に社会還元できるよう努めています。

グループ全体での寄付総額は、[Globalサイト\(サステナビリティ\)](#)をご覧ください

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する
情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合



➤ 未来世代のために

2030年までに貧困に終止符を打ち、持続可能な未来を追求する一大胆かつ新しい開発目標が、2015年9月、ニューヨークで開催された「国連持続可能な開発サミット」で、193の加盟国全会一致で採択されました。「貧困をなくす」「健康と福祉」「質の高い教育」「ジェンダー平等」など17の「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）*」と169のターゲットなどが掲げられ、あらゆる国で誰一人として置き去りにしないことを目指した取り組みが世界で始まっています。

世界では、3人に1人がトイレのない生活をしていること。水は有限で偏在し、誰もが同じように享受できているわけではないこと。性別や年齢、国籍、障がいの有無、文化の違いなどによる差別や偏見が今も存在していること。

私たちLIXILは地球や世界の現状から目をそらさず、未来を担う子どもたちが、健やかで安心して暮らしていくよう、できることから取り組んでいます。



伝え、ともに学ぶ

「トイレが世界を救う」、「水から学ぶ」、「ひとりにいい、みんなにいい」、「家の中の安全を考えよう」のオリジナル授業を従業員が地域の小学校で実施しています。

[more >](#)



日本での評価、約束

環境面では、「エコ・ファースト企業」として環境省に認定され、また女性活躍推進などにおいても、「第1回カタリスト特別賞」受賞など社外から高い評価を獲得しています。

[more >](#)

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

関連リンク

[サステナビリティ \(Global サイト\) >](#)

グループ全体でのサステナビリティへの取り組みについて報告しています。

[国際連合広報センター 2030 アジェンダ >](#)

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) を説明、紹介しています。

[United Nations Sustainable Development Goals website >](#)

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) の原文が参照できます。

[みんなでスマイルエコプロジェクト >](#)

現在も未来も、誰もが笑顔で暮らすために、「水の保全と環境保護」に取り組む活動の一つとして展開しているプロジェクトの紹介です。

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合



未来世代のために

▶ 伝え、ともに学ぶ

世界には、環境・貧困・人権・平和・開発といったさまざまな課題が複雑に絡み合って存在しており、持続可能な社会を構築していくには、その担い手を育む「持続可能な開発のための教育 = ESD : Education for Sustainable Development」が必要といわれています。

ESDとは、地球規模の課題を、自らの問題として捉え、一人ひとりが身近なところから実践していくこと (think globally, act locally) により、課題解決につながる価値観や行動を生み出すことを目指す学習や活動です。

LIXILでは、未来を担う子どもたちが、自ら考え、行動を起こすことを目的に、教育活動を行っています。子どもたちに教えることで従業員自身も学び、触発されています。

出前授業

LIXILは、各事業所の従業員がCR戦略の3つの優先取り組み分野である「グローバルな衛生課題の解決」「水の保全と環境保護」「多様性の尊重」と基盤となる倫理的な事業活動の「品質・顧客」に対応するオリジナル出前授業を近隣の小学校で実施しています。LIXILの専門知識を活かし、未来世代のために取り組んでいます。

『トイレが世界を救う!』



日本や世界のトイレ史、貧困地域の衛生課題、日本が貢献している事例などを紹介し、トイレの本来の役割について考えてもらいます。

トイレがなかった時代の生活や、排せつ物を循環利用する江戸時代の優れたシステム、世界で起きている深刻な衛生問題など、子どもたちが普段あまり触れることがない世界を紹介することで、あらためて今の日本の恵まれた状況を知る機会となっています。

2015~2016年度の2年間で、延べ22回の授業を実施、約1,300名の子どもたちが参加しました。

[授業内容の詳細ははこちら >](#)

『水から学ぶ』

オリジナルのすごろくやワークシートを使って楽しみながら、「水は限られる資源」であること、水の大切さについて学習します。



ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

子どもたちは授業を通して普段の生活を振り返り、水を大量に使っていること、節水の重要性に気づき、毎日の暮らしの中でできる工夫について、真剣に受け止め、考えてくれます。

2010～2016年度の7年間で、延べ111回の授業を実施、約5,400名の子どもたちが参加しました。

[授業内容の詳細はこちら >](#)

『ひとりにいい、みんなにいい～ユニバーサルデザイン～』



街や家の中の身近なユニバーサルデザインを「わかりやすい」「使いやすい」「安全・安心」の3つのポイントで学びます。さまざまな人たちに対して、それぞれどのような工夫がされているか考え、知ることを通して、年齢、性別、国籍、障がいの有無などに関わらず、

ひとりひとりが快適に暮らしていくける社会にしていくため、自分たちができることを学んでいく授業です。2017年4月より、東京2020公認教育プログラムの1つとして、全国展開していきます。

[授業内容の詳細はこちら >](#)

『家の中の安全を考えよう～安全教育プログラム～』



家の中の事故による死者数は、交通事故による死者数の3倍以上になっています。このような状況を受けて、子どもたちの家の中での事故防止と、将来自ら主体的に判断・行動して安全な暮らしを送ることができるようになりますことを目的として、安全教育を展開しています。

授業で使用する教材は、公益財団法人消費者教育支援センターが主催する「平成26年度 消費者教育教材資料表彰」で優秀賞を受賞しました。2014～2016年度の3年間で、延べ110回の授業を実施、約3,300名の子どもたちが参加しました。

[お客さまのために「安全に関する情報発信と啓発 安全教育授業プログラム」>](#)

› トイレが世界を救う

世界では、現在3人に1人が安全で衛生的なトイレを日常的に使用できない環境で生活をしています。そのうち約9.5億人が屋外で排泄を行っています。安全ではない水や不衛生な環境が原因で発症する下痢性疾患により、毎日800人以上の5歳未満の子どもたちが命を落としています。

LIXILは「優れた製品とサービスを通じて、世界中のひととの豊かで快適な住生活の未来に貢献」する企業として、この世界的な問題に取り組んでいます。

[グローバルな衛生課題の解決 \(Global サイト\) >](#)

国内では2015年度よりオリジナル出前授業「トイレが世界を救う！」を地域の小学校で実施していますが、未来を担う子どもたちに、世界のトイレ事情やトイレの歴史、衛生課題の解決に企業が取り組んでいることを知ってもらうことで、清潔なトイレ環境の大切さを深く理解し、自分たちの暮らしを振り返り、考え、行動する機会を創出することを目的としています。

また、各事業所の従業員が授業の講師を務めることで、地域社会との関わりを深め、未来世代への責任について学び、貢献していくことを目指しています。



ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

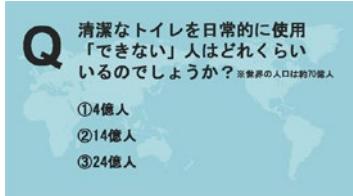
- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

授業の概要

対象	小学校高学年（5～6年生）
関連教科	総合的な学習の時間、道徳、社会
授業時間	全1時限
教材	オリジナルツールを用意。※教材は NPO 法人企業教育研究会（ACE） と共に開発
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの歴史 ・世界が抱えるトイレの問題 ・衛生課題解決の事例紹介

スライド教材 例

 <p>くみとった後は？</p>	<p>トイレの歴史では、排泄物を堆肥として再生し、資源循環させていた江戸時代の優れたシステムを紹介する。</p>
 <p>中世ヨーロッパ</p> <p>捨てられたうんちやおしっこが道路に積もり、伝染病などが広まっていた。</p>	<p>中世ヨーロッパでは、排泄物の不衛生な処理により、伝染病が流行し「トイレの暗黒時代」があったことを学ぶ。</p>

 <p>ケニアの学校のトイレ</p>	<p>世界の不衛生なトイレの状況について深く考えてもらえるよう、写真を提示して子どもたちに問いかける。</p>
 <p>Q 清潔なトイレを日常的に使用「できない」人はどれくらいいるのでしょうか？<small>※世界の人口は約70億人</small></p> <p>①4億人 ②14億人 ③24億人</p>	<p>世界では、3人に1人が安全で清潔なトイレを使用できていないという深刻な問題について、クイズ形式で質問し、考えてもらう。</p>
 <p>トイレを改善</p>	<p>貧困地域では学校に安全なトイレがないことによって、通学を断念する生徒が大勢いる状況を伝え、その地域での改善事例を紹介する。</p>
 <p>現地のひとが管理できることが大切</p>	<p>トイレを清潔に保つことの重要性を理解し、普段の学校の生活では誰がその役割を担っているのか確認しながら、自分たちの普段の生活についても考えてもらう。</p>

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

活動の実績

2015~2016 年度の 2 年間で、延べ 22 回の授業を実施、約 1,300 名の子どもたちが参加しました。

活動の成果

子どもたちの授業後のアンケートや先生の感想から、普段はきれいなトイレが使えることを当たり前のことと感じており、学校の授業だけでは知り得なかったトイレに関する歴史や世界の衛生問題の現状を知ることで、各自の気づきにつながっていることが伺えます。

また、授業の中での子どもたち同士の意見交換では、学んだ内容について、自分の言葉で意見や感想を述べ合う姿が見受けられます。

そして、従業員自身の知識も深まるることはもちろん、普段接しない子どもたちとの交流はとても良い経験となり、従業員の人間的な成長にも寄与しています。

子どもたちの感想

- ・日本や外国の昔のトイレの歴史はとてもびっくりするところがたくさんあっておもしろかったです。今までトイレに興味はなかったけど、よく考えてみると日本の技術でつくられたトイレにはいろいろな機能があって、興味を持ちました。(小 6)
- ・普段、当たり前のように使っているトイレだけど、世界の 3 人に 1 人が衛生的なトイレを使っていないことに驚きました。当たり前だと思うのではなく、感謝をもって過ごしていきたいです。(小 6)
- ・自分たちの暮らしはすごく良い環境でありがたいと思った。苦しんでいる同じ年の子どもたちがいることを心にいれていきたいです。(小 6)
- ・自分たちも社会に貢献できることをせいいっぱいやっていきたいと思いました。(小 6)

先生の感想

- ・日本のトイレの機能が世界的にトップクラスであることを興味深く感じている様子が伺えたとともに、子どもたちが世界の問題に関心を持つきっかけになりました。
- ・日本は恵まれているということを生徒も理解できるような内容で良かった。

従業員の感想

- ・子ども達の積極的な姿勢と、先生方が熱心に聞いて下さったことが印象的でした。今まで知らなかつた世界に興味を持っていただけたようで良かった。
- ・普段の業務とは異なる子どもたちへの授業ということで、素直な疑問や意見をもらい、新鮮な感覚を覚えました。非常に楽しかったです。
- ・今後も継続して活動し、多くの人に考えることの大切さ、トイレの重要性などを伝えていきたい。

今後の活動

従業員自身が社会貢献活動として取り組むことはもちろん、子どもたちに、技術力だけでなく、おもてなしの心やトイレを清潔に気持ちよく使う日本人のマナーについても周知していきます。

ステークホルダー
エンゲージメント

お客さまのために
| 安全に関する
情報発信と啓発
| ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で
| 地域との対話
| 自然環境の保全
| 復興支援
| 地域との協働
| 寄付、協賛、共催

未来世代のために
| 伝え、ともに学ぶ
| 日本での評価、約束

従業員とともに
| 多様性の尊重
| 働きがいのある職場環境づくり
| ヘルスケア
| 労働組合

› 水から学ぶ

「21世紀は水の世紀」と言われ、水問題は世界の重要課題の一つです。水の惑星と呼ばれる地球。しかしながら、私たちが使える水は全体の0.007%に過ぎず、何気なく食べている野菜や肉を収穫し育てるためには膨大な水が使われています。トイレやお風呂等、水まわりの設備機器を取り扱うLIXILとして、水は限られる資源であることや、毎日の生活を通して水の大切さを子どもたちに伝える活動を行っています。

日本に暮らしながら、地球の水問題を自分たちの課題としてとらえることは簡単なことではありません。子どもたちが、「地球の一員として水を大切にしたい」と思う心を育てるため、この活動に取り組んでいます。

また、各事業所の従業員が授業の講師を務めることで、地域社会との関わりを深め、未来世代への責任について学び、貢献していくことを目指しています。



授業の概要

対象	小学校高学年（5～6年生）
関連教科	理科・社会・総合的な学習の時間
授業時間	全2時限（45分×2コマ）
教材	オリジナルツールを用意。すぞろく「しづくの大冒険」、ワークシート
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・水の特徴と地球規模での循環 ・世界で起きている水の問題 ・バーチャルウォーター～食物に隠れている水～ ・暮らしに使われる水

スライド教材例

	水の惑星と言われる地球のどこに水があるのかを考え、実際に直接使える水が非常に少ないことを知ってもらう。
	固体から液体、気体へと変化する水の特徴を確認しながら、水が循環していることを伝える。
	すぞろくで一人ひとりが水の「しづく」となって、形を変えながら世界中を旅する。ゲームを通して、それぞれの場所で水がどのように使われている、どんな状態なのかを学ぶ。

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

	<p>日常生活で使う水の量について、ワークシートを使って考えてみる。たとえば、歯を磨くときに、コップを使うと、どれくらい節水できるのかを推測する。</p>
	<p>世界には、水を遠くまで汲みに行くために、学校に通えない子どもたちがいること知り、水が不自由なく使えることが、当たり前ではないことを学ぶ。</p>
	<p>カレーライスを例に、食物を作るために使われる水、バーチャルウォーターについて学び、海外でおこっている水不足も自分たちの生活につながっていることを知る。</p>
	<p>一人一日 300L 使っている水を、どうすれば減らすことができるか、身近な節水方法について、グループでアイデアを出しあう。</p>

活動の実績

2016年度は10校16回545名に授業実施し、2010年度からの7年間では、延べ111回、約5,400名の子どもたちが参加しています。

活動の成果

子どもたちの授業後のアンケートから、私たちが使える水が実は少ないということや、きれいな水が使える環境が当たり前でないということを知り、水の大切さについて考えるきっかけになったことが伺えます。

また、先生への後日アンケートからは、授業を受けた日から、手洗い時や掃除の時に水を無駄にしない姿が見られたとの声もあり、身近な「水」について学ぶことが、行動の変化にすぐ結びつくようです。

従業員にとっても改めて自社製品と水問題を考えるきっかけにもなり、自身の成長や気づきの場となっています。

子どもたちの感想

- ・ 私は飲み水というと、透明のものしか思い浮かばずそれが常識だと思っていた。だけど、そのようなことを思えるのはわずかな国であること、茶色い水をくむために8kmも歩き、そのために学校にいけないということに驚きました。(小6)
- ・ 初めて知ったことがたくさんありました！一番おどろいたことは、一人一日 300L もの水を使っていることです。手を洗う時にこまめに水を止めるだけでも使う量が違ってくると知って少し気をつけるようになりました。(小6)
- ・ 食べ物を輸入することで、きれいな水を使うことができずに、こまっている国の人たちの貴重な水を使っているということを知りました。これからはごはんも大切に残さずに食べたいです。(小6)
- ・ きれいな水がなくて死んでしまう人々がいる。わたしたちは自由にいっぱい使

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

えるから、すこしでも使う量を少なくして、きれいな水がないところに分けてあげたいと思いました。(小5)

先生の感想

- ・ 環境というとなかなか水のことと思い浮かばず、ゴミ、リサイクルなどに目が向きます。しかし、水の汚れに着目し、子どもから率先して家庭で実践すると、少しずつ家庭排水も美しくなっていくと思われます。遠回りですが、子どもの意識が変わることで、大人へも伝わると考えています。
- ・ 水について子どもたちが知らない内容がたくさんあり勉強になったと思います。これから意識して水を大切に使う場面が多くなると思います。
- ・ 普段なかなか自分の知識を友達に伝えられない児童が発言することができ、それ以外の児童も新たな知識を得ることができました。

今後の活動

従業員自身が社会貢献活動として取り組むことはもちろん、世界の課題と自分の生活の繋がりを伝え、子どもたちが自ら考え行動できるように活動を続けています。

➤ひとりにいい、みんなにいい ~ユニバーサルデザイン~

高齢化が進む日本、2035年には人口の5人に1人が75歳以上の高齢者になると予測されています。また、現在、世界の約15%の人が何らかの障がいを持っていること、その比率は年々増加しています。

「衣食住」の「住」にかかわるLIXILとして、子どもからお年寄りまで世界中のひとりひとりが豊かで快適な住生活を送ることをめざす「ユニバーサルデザイン」を子どもたちに伝えます。

子どもたちにとって、高齢者や障がい者は遠く自分と違う人たちとらえがちです。街や家に施されている身近な「ユニバーサルデザイン」を知ることで、性別、年齢、国籍、障がいの有無などの多様性に関する理解を深め、自分たちができるところを考え、行動する力を身に着けるきっかけを提示していきます。子どもたちとともにユニバーサル社会の実現に向けて、私たちは活動に取り組んでいます。また、各事業所の従業員が授業の講師を務めることで、地域社会との関わりを深め、未来世代への責任について学び、貢献していくことを目指しています。

* このプログラムは、東京2020公認教育プログラム（よい、ドン！）の一つです。

[東京2020参画プログラム公式サイト](#)



ステークホルダー
エンゲージメント

お客さまのために
| 安全に関する
情報発信と啓発
| ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で
| 地域との対話
| 自然環境の保全
| 復興支援
| 地域との協働
| 寄付、協賛、共催

未来世代のために
| 伝え、ともに学ぶ
| 日本での評価、約束

従業員とともに
| 多様性の尊重
| 働きがいのある職場環境づくり
| ヘルスケア
| 労働組合

授業の概要

対象	小学校4~6年生
関連教科	総合的な学習の時間、道徳、国語、社会
授業時間	全2時間(45分×2コマ)
教材	オリジナルツールを用意
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性のある社会と自分 ・街や住まいのユニバーサルデザイン ・耳の不自由な方への伝え方体験 ・多機能トイレのユニバーサルデザイン探し

スライド教材 例

	日本の人口を100人に換算して、性別や年齢、国籍など、多様な人が暮らす社会であることを学びます。
	外国に行った際、何が書いてあれば迷わないか考えることで、自分自身も多様な個性を持つひとりであることを確認します。

<div style="background-color: #e67e22; color: white; padding: 5px 10px; text-align: center;"> 第2問 </div> <div style="padding: 10px;"> <p>◆グループで一人答える人を決めましょう</p> <p>◆伝える人は、今から示す言葉を声を出さず、道具も使わずに伝えてください</p> <p>◆答える人は後で番号札をあげてください</p>  </div>	<div style="background-color: #e67e22; color: white; padding: 5px 10px; text-align: center;"> 使いやすく進化した水栓 </div> <div style="padding: 10px;">  </div>	<div style="background-color: #e67e22; color: white; padding: 5px 10px; text-align: center;"> ユニバーサルデザインとは </div> <div style="padding: 10px;"> <p>ひとりにいい みんなにいい</p>    <p>わかりやすい 正しく伝わる</p> <p>使いやすい 駆けや操作がしやすい</p> <p>安全・安心 誰にでもやさしい</p> </div>
<div style="background-color: #e67e22; color: white; padding: 5px 10px; text-align: center;"> 探しでみよう！多機能トイレの秘密 </div> <div style="padding: 10px;">  </div>	耳の不自由な方への伝え方をゲーム形式で楽しく学びながら、伝えることの難しさや相手の立場に立って考える事が大切を体験します。 身近な家の中の製品が、さまざまな立場の人にとって使いやすいうに進化していることを伝えます。 ユニバーサルデザインの工夫を「わかりやすい」「使いやすい」「安全・安心」の3つのポイントで確認し、学びます。	

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

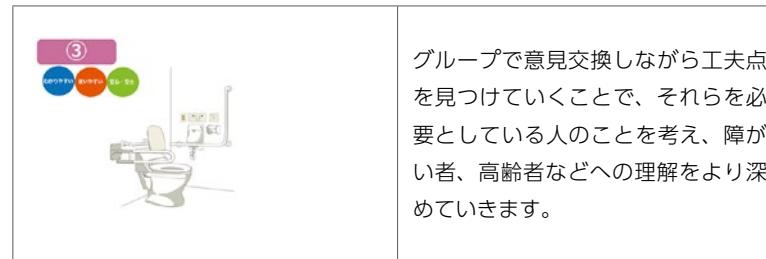
- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合



グループで意見交換しながら工夫点を見つけていくことで、それらを必要としている人のことを考え、障がい者、高齢者などへの理解をより深めていきます。

活動の実績

2017年4月から本格的に実施します。

子どもたちの感想

- ・ユニバーサルデザインがどんな物なのかと、どのようなものがあるかがよく分かつて楽しかった。ユニバーサルデザインは、「だれもが暮らしやすい街づくりに大切な物」だという事がよく分かった。(小5)
- ・この授業を通して、ぼくたちにも出来る事があるんだなと思って、普段身近な所にある物にもよくみてみると、いろんな工夫がしているという事が分かり、とても楽しく勉強できました。なので、これからもこのことをいかして、積極的にこまっている人を助けたりしていきたいです。(小5)
- ・さまざまな人がいることと、私たちが生活していく中のうらで一生けんめいに、「どうしたらみんながくらしやすくなるのだろうか」を考えている人が自分の身の周りにいる、ということがすごいと思いました。(小5)

先生の感想

- ・映像、クイズ、グループでの話し合いなど、いろいろな活動があり、児童が大変興味をもって取り組んでいました。内容も難しそうで、とてもわかりやすかったです。取り上げた事例が児童に身近にあるものでよかったです。

今後の活動

従業員自身が地域貢献活動として取り組むことはもちろん、世界の課題と自分の生活の繋がりを伝え、子どもたちが自ら考え行動できるように活動を続けていきます。

ユニバーサルデザイン出前授業お申込み

2017年度の応募は締め切りました。

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

未来世代のために › 日本での評価、約束

LIXILは、CR戦略のなかで、マテリアルイシューを定め、目標を設定しています。グローバル企業として、社会への約束として取り組み、成果を報告していきます。日本でも、国内最大級の住まいと暮らしの総合住生活企業として、リーダーシップを発揮していく所存です。省庁などが進めるさまざまな活動に参画し、評価や認定を受けています。

エコ・ファーストの約束

「エコ・ファースト」とは、企業の環境保全に関する業界のトップランナーとしての取り組みを促進していくため、企業が環境大臣に対し、地球温暖化対策、廃棄物・リサイクル対策など、自らの環境保全に関する取り組みを約束する制度です。



LIXILは2008年の制度発足時にいち早く「エコ・ファースト企業」として環境省から認定を受け、地球環境保全活動を行ってきました。2016年3月、LIXILグループとして、「コーポレートレスポンシビリティ(CR)戦略」を発表し、注力テーマ「水の保全と環境保護」を掲げ、具体的目標「環境ビジョン2030 環境負荷ネットゼロ」達成に向け活動を続けています。このCR戦略に基づき、LIXILは環境省と「エコ・ファーストの約束」を更新し、継続して地球環境負荷の削減に取り組んでいます。

「エコ・ファーストの約束(更新書)」大項目

1. 製品・サービスのライフサイクル全体での環境影響を評価し、住生活の質の改善や、水危機や気候変動をはじめとした環境課題の解決に貢献する製品及びサービスの開発と普及に取り組みます。
2. あらゆる業務において環境配慮型のオペレーションを実践し、持続可能な資源の利用、エネルギー・水の効率的な利用、廃棄物や化学物質の適正な管理・削減などに取り組みます。
3. 企業市民としてステークホルダーと相互理解を深め、地域社会に参画し協働します。

[\[エコ・ファーストの約束\(更新書\)\]全文はこちら >](#)

[水の保全と環境保護 \(Global サイト\) >](#)

[環境省「エコ・ファーストの制度について」>](#)

[エコ・ファースト推進協議会 >](#)

「第1回カタリスト特別賞」受賞

企業におけるインクルージョンを通じて女性のキャリア推進を支援する非営利団体カタリストから、日本において初となる「カタリスト特別賞」を受賞しました。

男性の仕事・職場というイメージを持たれがちな建築業界、住宅設備機器業界の中で、妊娠中の女性やワーキングマザー、女性・男性センターを対象にした様々なプログラムの展開や人材育成など、女性が活躍できる体制づくりを短期間で進めてきたことが高く評価されました。

これからも従業員一人ひとりがそれぞれの力を発揮して活躍できるよう、ダイバーシティの文化醸成に取り組んでまいります。



[CATALYST >](#)

[カタリストジャパン >](#)

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

「女性活躍推進法」に基づく「一般事業主行動計画」の公開

「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」が制定され、2016年4月1日から、国・地方公共団体、労働者301人以上の大企業は、女性の活躍推進に向けた数値目標と取り組みを盛り込んだ行動計画の策定などが義務付けられています。女性がより活躍するためには働き方を含む環境の整備を更に進める必要があることから、以下の通り、行動計画を策定しました。

「女性活躍推進法」に基づく「一般事業主行動計画」

LIXILでは女性の活躍を積極的に進めるために2014年8月に『We Doアクション』を策定し、数値目標を掲げて取り組んでいます。今般の「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」成立を受けて分析を行った結果、女性がより活躍するためには働き方を含む環境の整備を更に進める必要があることから、次のように行動計画を策定します。

1. 計画期間 平成28年4月1日～平成31年3月31日
2. 当社の課題
 1. 男性の育児休業の取得率が低い
 2. 有給休暇の取得率が低い
3. 目標と取組内容・実施時期

目標1：

男性の育児参画を促すため育児休暇制度（仮称）を整え、平成30年度には取得率を50%以上とする。

〈取組内容・実施時期〉

 - ・平成28年4月～ 育児休暇制度（仮称）の導入を検討
※同年6月、上記制度として「配偶者出産・育児休暇（パパの子育て休暇）」制定、導入
 - ・平成29年4月～ 上記制度の導入、及び取得促進活動を展開
 - ・平成30年4月～ 平成29年度の実績を把握し、必要に応じて目標達成のための促進活動を実施

目標2：

長時間労働の是正を目的として、平成30年度の正社員の有給休暇取得率を平成26年度実績から10ポイント以上アップする。（取得率55%以上）

〈取組内容・実施時期〉

 - ・平成28年4月～ 平成27年度の実績を分析し、対応策を検討
 - ・平成29年4月～ 取得促進のための対応策を展開
 - ・平成30年4月～ 平成29年度の実績を把握し、必要に応じて目標達成のための促進活動を強化

以上

[ニュースリリースはこちら >](#)

関連リンク

[多様性の尊重はこちら >](#)

そのほかの取り組み

このほかにも、ダイバーシティの推進や製品安全への取り組みなどへ、高い評価を得ています。

タイトル	概要	取得年
PRIDE 指標ゴールド 	<p>ダイバーシティ・マネジメントの促進と定着を支援する任意団体 work with Prideによる、LGBTなどの性的マイノリティに関する取り組みの評価指標「PRIDE 指標 2017」で「ゴールド」受賞</p> <p>work with Pride</p>	2017年10月
カタリスト特別賞 	<p>企業におけるインクルージョンを通じて女性のキャリア推進を支援する非営利団体カタリストから「カタリスト特別賞」を受賞</p> <p>CATALYST カタリストジャパン</p>	2017年6月

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

<p>「健康経営優良法人 2017」</p>  <p>2017 健康経営優良法人 Health and productivity ホワイト500</p>	<p>経済産業省が日本健康会議と共同で「健康経営」を実践している法人を選定する「健康経営優良法人認定制度」の大規模法人部門（ホワイト500）において、「健康経営優良法人 2017」に認定</p> <p>経済産業省 健康経営優良法人認定制度</p>	<p>2017年2月</p>	<p>次世代認定マーク 「くるみん」</p>  <p>くるみん</p>	<p>厚生労働省東京労働局 より「次世代育成支援対策推進法」に基づく「子育てサポート企業」に認定</p>	<p>2015年10月</p>
<p>認定マーク「えるぼし」 (3段階目)</p>  <p>えるぼし</p>	<p>厚生労働省東京労働局より「女性活躍推進法第9条」に基づく基準適合一般事業主として最高位の認定を取得</p> <p>厚生労働省 女性活躍推進企業データベース</p> <p>内閣府男女共同参画局 女性活躍推進法「見える化サイト」</p>	<p>2017年1月</p>	<p>消費者教育教材資料 表彰 優秀賞</p>  <p>Product Safety</p> <p>2014 製品安全対策優良企業</p>	<p>公益財団法人消費者教育支援センター主催「平成26年度消費者教育教材資料表彰」において、「安全教育授業プログラム～家の中の安全を考えよう～」が優秀賞受賞</p> <p>安全教育授業プログラム ></p>	<p>2015年10月</p>
<p>精神障害者等雇用 優良企業認証</p>  <p>精神障害者等雇用優良企業</p>	<p>精神障がい者等を中心とした障がい者の雇用促進に積極的に取り組む企業として、厚生労働省委託事業「精神障害者等雇用優良企業認証」を取得。事務局：一般社団法人障害者雇用企業支援協会</p>	<p>2016年5月</p>			

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合



従業員とともに

現在、LIXIL グループ全体では、7万人以上の従業員が世界中で働いています。うち、日本国内では約3万8千人、株式会社 LIXIL 単体の従業員は、約1万9千人となります。LIXIL は、「2020年までに世界で最も企業価値が高く、革新的で、信頼されるリビングテクノロジー企業となる」というビジョンを掲げています。ビジョンを達成し、グローバル競争に勝ち続けていくためには、従業員の活力を増大させる人事基盤が必要と考えます。ビジョンの共有と達成に向け、「実力主義の徹底」、「多様性の尊重」、「公平な機会の提供」を尊重し実現する企业文化づくりを進めています。



多様性の尊重

誰もが実力を十分に発揮できる会社となるよう、経営戦略としてダイバーシティの推進に注力しており、女性活躍や障がい者雇用促進について紹介しています。

[more >](#)



働きがいのある職場環境づくり

従業員の声を反映しながら、仕組みづくりや職場環境の改善に積極的に取り組んでいます。

[more >](#)



ヘルスケア

健康保持増進の活動として、「LIXIL WELLNESS」・ウォーキング・メンタルヘルスケアなどの取り組みや「健康経営優良法人2017」認定について紹介しています。

[more >](#)



労働組合

LIXIL 労働組合が掲げるビジョンやミッション、組合員意識調査や、福利厚生への取り組みについて紹介しています。

[more >](#)

関連リンク [サステナビリティ 従業員 \(Global サイト\) >](#)

従業員関連のデータや労働安全衛生、人材育成、多様性と機会均等など、グループ全体の取り組みを報告しています。

ステークホルダー
エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

従業員とともに
多様性の尊重

LIXILは、多様性の尊重を、CR戦略の柱の一つに掲げ取り組んでいます。社内外の人びとの多様性を尊重し、特に、製品やサービスなどを通じて、高齢者や障がい者の生活の質の向上に貢献します。

そして、社内では、性別、年齢、人種、国籍、価値観、バックグラウンドなどの違いを歓迎し、多様な英知を結集することで生み出されるエネルギー、創造性を強さの源泉としています。LIXILはすべての従業員が働きやすい職場環境、風土を整備し、誰もが企業家精神を持って高い目標に挑戦し、その成果が正当に評価される企業を目指します。

最近ではLGBTへの関心が高まっていますが、LIXILではLGBTへの理解と受容を促していく取り組みをはじめています。まず人事部門のスタッフが正しく知識を身に着け、協力者となり、発信していくよう勉強会をスタートさせました。十分に理解してもらうために、勉強会の対象範囲を徐々に拡大し、アライと呼ばれる理解者・支援者を増やしていく計画です。詳細は今後、当サイトで報告していきます。

女性の活躍推進

従業員の約23%を占める女性の活躍が不可欠であると考え、2013年1月、LIXILは、ダイバーシティ宣言を掲げました。

[more >](#)**障がい者の雇用促進**

ダイバーシティ推進部の中に「障がい者雇用促進室」を設置し、誰もがいきいきと働くことができる職場環境づくりに取り組み込んでいます。

[more >](#)

関連リンク

[多様性の尊重 \(Globalサイト\) >](#)

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

女性活躍推進

LIXIL 統合後 1 年に満たない 2012 年 3 月、LIXIL の女性管理職は 22 名で、管理職の女性比率は、わずか 0.9% でした。多様性により創出されるエネルギーと創造性を経営に活かすためには、まずは従業員の約 23% を占める女性の活躍が不可欠であると考え、2013 年 1 月、LIXIL は、ダイバーシティ宣言を掲げました。
[多様性の尊重 \(Global サイト\) >](#)

➤ ダイバーシティ宣言

LIXIL の企業文化は、多様性が生み出すエネルギー、創造性を経営に活かし、公正で公平は環境の中で、誰もが現状に満足せず、自らが課す高いハードルを次々に越えきちんと結果を出し、それが正当に評価される社会を目指すことです。



1. 多様性の尊重 (Respect Diversity)

性別、年齢、人種、国籍、価値観、バックグラウンドの違いを歓迎し、自由闊達な議論から生み出されるエネルギー、創造性を強さの源泉とします。

2. 公平な機会の提供 (Equal Opportunity)

属性の違いにかかわらず自発的・積極的に取り組もうとする人に活躍の機会・場を公平に提供します。

3. 実力主義の徹底 (Meritocracy)

LIXIL VALUE の実践とパフォーマンスの発揮を正当に評価します。

そして、「人事施策」、「人材育成」、「環境整備」、「風土醸成」の 4 つを柱に総合的に施策を展開、女性の積極的な管理職登用、定期採用、ワーク・ライフ・フレ

キシビリティの推進、LIXIL Women's Network の立ち上げ、「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」が発表した「行動宣言」に沿った「WeDo アクション : Women Empowerment in the Diversified Organization」の制定など、女性の活躍を加速させるために様々な施策に取り組んでいます。

ライフイベントを経てもキャリアを形成するための「ままっぷ」

LIXIL では、毎年 200 名ほどが出産休暇を経て、育児休業を取得しています。この女性たちが、育児休業をマイナスにとらえるのではなく、出産もライフイベントの一つとして前向きに考え、継続的にキャリアを考えるワーキングマザー向けのサポートツール「ままっぷ」を運用しています。これは、妊娠が分かった時点から上司と面談を行い、復職後のキャリアに関する計画を自ら立てていくものです。

- Mamaが ままっぷ
- ✓ キャリア UP!
 - ✓ マインド、モチベーション UP!
 - ✓ スキル UP!
 - ✓ コミュニケーション UP!
- できる MAP



出産予定日を入れると、いつ、何をすべきかが分かるロードマップになっており、上司と共にしながらキャリアを考えることができます。特に面談で確認すべきことなど、当事者からは言い出しにくいこと、上司から聞きにくいことがフォーマット化されることで、コミュニケーションが円滑になります。育児休業中もコミュニケーションを取ることは、復職後の受け入れ準備ばかりではなく、育児休業取得中の当事者のモチベーション維持にもつながっています。多様性を活かすには、相互理解が不可欠であり、上司も専用の e ラーニングで対象者へのアドバイスやコミュニケーションに必要な知識も学んでいます。

ステークホルダー
エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

このような具体的な取り組みや人材育成などが評価され、2017年6月、「第1回カタリストジャパン特別賞」を受賞しています。

LIXILは、これまでの性別役割分担意識から脱却し、継続して女性たちの力、様々な人材の能力を引き出していく。ビジネス面での成果も現れており、多様性が生み出す力を活かすことで、LIXILの成長を図っていきます。

女性活躍のさらなる促進

平成28年（2016年）4月「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」の施行に伴いLIXILでは、引き続き女性活躍を加速し定着させるため、さまざまな分析を行い、働き方を含む環境の整備を促進する「一般事業主行動計画」を新たに策定しました。

具体的には、男性の育児休業の取得率が低いこと、有給休暇の取得率が低いことを課題と捉え、その対策を実行し改善を図ります。平成28年4月1日から、平成31年3月31日までを計画期間とし、以下の目標を表明しています。

目標と取組内容・実施時期

目標1：男性の育児参画を促すため育児休暇制度（仮称）を整え、平成30年度には取得率を50%以上とする。

〈取組内容・実施時期〉

- 平成28年4月～ 育児休暇制度（仮称）の導入を検討
※同年6月、上記制度として「配偶者出産・育児休暇（パパの子育て休暇）」制定、導入
- 平成29年4月～ 上記制度の導入、及び取得促進活動を展開
- 平成30年4月～ 平成29年度の実績を把握し、必要に応じて目標達成のための促進活動を実施

目標2：長時間労働の是正を目的として、平成30年度の正社員の有給休暇取得率を平成26年度実績から10ポイント以上アップする。（取得率55%以上）

〈取組内容・実施時期〉

- 平成28年4月～ 平成27年度の実績を分析し、対応策を検討
- 平成29年4月～ 取得促進のための対応策を展開
- 平成30年4月～ 平成29年度の実績を把握し、必要に応じて目標達成のための促進活動を強化

[ニュースリリースはこちら >](#)

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する
- | 情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

障がい者の雇用促進

LIXIL では、ノーマライゼーションの考えを尊重し、さまざまな障がいを持った方が、それぞれの能力、特性に応じて、健常者とともに仕事ができる職場環境づくり、仕組みづくりを進めています。LIXIL の障がい者雇用の特徴は、障がい者雇用を主目的としたいわゆる特例子会社を設けず、LIXIL 本体の中で、LIXIL の業務を担う障がい者雇用を進めていることです。



LIXIL では、本社のある東京のみでなく、北海道から九州まで、全国各地の営業拠点、生産拠点、研究・開発拠点、物流拠点で、障がい者が健常者と共にさまざまな業務を担っています。障がいを持った従業員が、健常者と同じ職場で一緒に働くことで、障がい者本人だけではなく健常者も多様性のあり方を深く理解することができます。それぞれの特性を受け入れて尊重しあうことで、信頼関係を築きあえる職場環境の創出という、まさにありたい姿としてのダイバーシティの実現につながっていくと考えています。

現在 LIXIL には、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者が在籍しています。2017 年 3 月 31 日現在「厚生労働省 障害者雇用率制度」算出方法に基づく障がい者雇用数は 427 名、障がい者雇用率は 2.26% です。今後も継続して雇用率の維持、向上に努めてまいります。

障がい者就労センター「WING NIJI」

LIXIL の障がい者雇用の推進で重要な役割を担っている施設として、本社人事部に設けられた障がい者就労センター「WING NIJI」があります。

「WING NIJI」では、LIXIL 全社の障がい者雇用の促進、



情報収集や LIXIL の障がい者雇用の紹介を行っています。同時に、さまざまな障がいを持つ従業員が、実際に事務作業を中心とした多様な業務に従事し、そこで必要となる業務適性の評価や就労上の支援策を検討することで、障がい者がより活躍できる職場環境や職務能力の開発に取り組んでいます。

2017 年 6 月 1 日現在、「WING NIJI」には、身体障がい者 19 名、知的障がい者 9 名、精神障がい者 11 名の計 39 名の障がい者が在籍して活動を進めています。

「WING NIJI」の設立は、昨今の障がい内容の多様化の中で、発達障がい、高次脳機能障がい等を含む精神障がいや、視覚と聴覚、知的と身体といった重複障がいへの対応、そしてこれまで作業的な業務が比較的多かった知的障がい者の業務範囲を拡大していくことも目的としています。具体的には、多種多様な事務業務（デスクワーク）を用意し、その対応を模索することで、さまざまな障がいを持ったメンバーが、その特性に合った事務業務にチャレンジできる可能性を探っています。



出前授業プログラムで使用するツールを丁寧にパッケージして各エリアへ発送する作業も請け負っています

「WING NIJI」の特徴は、隣接するオフィスなどからの多様な依頼業務を請け負うことで、障がい者の適性や能力に応じたさまざまな業務を用意できることです。年間 400 件を超える単発の業務に加え、納期の長い大口業務や常時対応が求められる定常業務を織り交ぜることで、仕事が固定化せず、在籍メンバーにとってもその特性に応じた変化に富んだやりがいのある業務設計となります。そしてそれは成長へのチャレンジにもなっています。

「WING NIJI」の健常者スタッフは 3 名で、業務指示、進捗管理、課題対応には多くの障がい者メンバーが参画しています。外部支援機関との連携や障がい者雇用に関する講習会等にも障がい者メンバーが積極的に参加し、障がい者職業生活

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

相談員の資格を持つ障がい者も4名在籍しています。ここでは、健常者が障がい者を管理するのではなく、健常者と障がい者が共に組織・業務を管理・運営することが基本となっています。

また、「WING NIJI」では、精神障がいの方への対応にも力を入れています。精神障がい者の場合、人間関係や業務上のストレスに敏感な人も多く、また困りごとをなかなか言い出せないケースも散見されます。そこで、障がい者職業生活相談員の精神障がいメンバーが中心となる支援スタッフが、当事者の視点でメンバーの負荷や困りごとに注意を払っています。同時に、現場のリーダーである身体障がいメンバー、精神障がいメンバー、健常メンバーからなる支援スタッフ会議を活用することで、わずかな異変の兆候もいち早くキャッチし問題解決にあたります。採用時点から外部支援機関と連携し、精神障がいメンバーの情報を共有し対応することで、メンバーの安定と定着を図っています。



参加者の半数以上が障がい者で開催される支援スタッフ会議

さらに、健常者と障がい者が共に働く職場づくりのために、隣接する本社オフィス等への派遣出張業務も行っています。短時間から始めて徐々に時間を増やし、また業務内容を派遣先の健常スタッフが指示することで、相互の関わりを増やし、ノーマライゼーションの考え方方に沿ったLIXILの目指すダイバーシティの実現を進めています。

LIXILは、このような活動によって、2016年5月精神障がい者等を中心とした障がい者の雇用促進に積極的に取り組む企業を評価する、厚生労働省委託事業「精神障害者等雇用優良企業認証」(事務局：一般社団法人障害者雇用企業支援協会)を取得しました。



施設概要

【所在地】	〒136-0072 東京都江東区大島2-14-7
【建物面積】	388m ² (約117坪)
【収容人数】	50名
【竣工】	2014年7月2日

ユニバーサルデザインとパッシブファーストの技術を取り入れ、社員の健康や快適性、環境負荷低減を追求しています。木造平屋の良さをいかし、温かみのある家庭のような雰囲気を創出することで、誰もが働きやすいオフィス環境を整えています。



ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | **働きがいのある職場環境づくり**
- | ヘルスケア
- | 労働組合

従業員とともに › 働きがいのある職場環境づくり

LIXILは、従業員が問題意識を持って意見をオープンに発言できること、そして自らが常に変化し挑戦し続けることが重要であると考えています。LIXILが目指す方向性や戦略を理解し、社員が誇りを持っていきいきと働ける職場としていくために、グループ全従業員を対象とした意識調査「LIXIL Heartbeat(ハートビート)」を2015年から隔年で実施し、従業員の声を反映しながら、仕組みづくりや職場環境の改善を積極的に行ってています。キャリアアップのための自己申告制度やスキルアップ研修、評価制度など、一人ひとりの多様性をいかし、さらに組織力の強化につながる改革に取り組んでいます。

[従業員 働きやすい職場 \(Global サイト\) >](#)

[従業員 人材育成 \(Global サイト\) >](#)

LIXIL の働き方改革「変える！はたらくスタイル」

すべての従業員が働くことを楽しみ、自分の仕事に誇りを持てる会社となることを目指して、現在、働き方を見直し、ワークライフバランスを充実させるためのさまざまな施策を進めています。フラットでオープンなコミュニケーションが取れる環境づくりを推進するための行動ガイドラインや会議マニュアルをはじめ、人事規程の改訂や生産性向上に向けた意識改革など、こうした働き方改革の一連の施策を「変える！はたらくスタイル」と名付けました。



3つの行動を基軸とする施策例

変える!はたらくスタイルの位置づけ

従業員一人ひとりが起業家精神を持ち、楽しく、その一員でいることに誇りを持てる会社にする



LIXILで働く私たちの業務すべてが、"世界中の人びとの暮らしをよくすること"につながっています。従業員一人ひとりが自らの仕事に誇りを持ち、プライベートを充実させる働き方を実現するのがLIXILの働き方改革です。また、これを実現するためにすべての従業員が当事者意識を持って考え方判断し、相手を理解しようと努め、小さな実験を繰り返し、失敗したとしてもそれを学びに変える、といった目に見える行動を体現する必要があります。この「変える！はたらくスタイル」を社内に浸透させるため、全国キャラバンによる経営幹部との対話や、デジタルを活用した社内サイトへの投稿など、従業員全員の意識改革を進めるさまざまな施策に取り組んでいます。

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

「変える!はたらく スタイル キャラバン」

従業員が自らの働き方を考えていくため、CEO の瀬戸が各地で直接思いを伝える「変える！はたらく スタイル キャラバン」をスタートさせました。働き方を変えるために、自らの言葉で経験や思いを語る講話、参加者との質疑の後、具体的にどのように行動する必要があるのかを参加者が自分事として考えるワークショップを実施しています。



講話内容

- ・家族、友人、大切な人たちと過ごす時間を大切に、プライベートを充実させてほしい
- ・仕事は人に属するのではなく組織に属するものであるため、チームとしての在り方が大切
- ・大切な行動は、正しいことを行うこと、敬意を持って働くこと、実験し学ぶこと

ワークショップでは、理想の職場と現状のギャップや当日の講話や質疑を通して感じたことを振り返り、一人ひとりが LIXIL で働くことが楽しく、一員でいることに誇りを持つために必要なそれぞれの課題を考えます。そして、各課題を解決するために習慣化させる行動として「何をする」のか、または「何をやめる」のかを決め、グループ内や参加者の前で宣言します。

参加者からは、「褒めることから始め、敬意を持って接する」「仕事内容の見える化や共有化をより積極的に行う」などの具体的な宣言がありました。



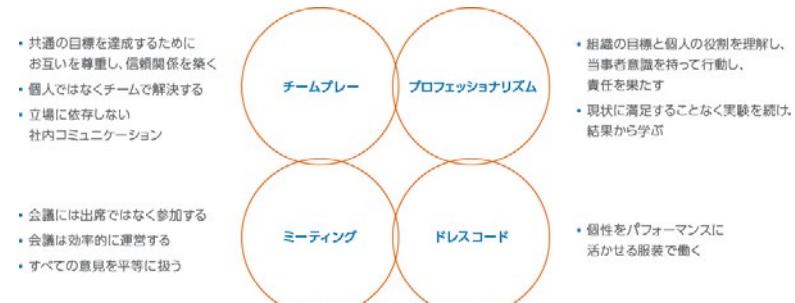
今後、このキャラバンを全国的主要拠点で開催していきます。

行動ガイドを活用したワークスタイルの変革

新たな企業文化を育むためには、従業員一人ひとりの意識改革が欠かせません。LIXIL は個々の文化を持った 5 社が統合して誕生した、という原点がありますが、この多様性を私たちの強みとしていかしていくためには、自ら変化を起こし成長していくことが重要です。

「すべての従業員が、当事者意識を持ち、主体性を持って判断し、自ら進んで実践する」ことを掲げ、会社全体の共通言語、軸となるよう「LIXIL 行動ガイド」を作りました。

LIXIL 行動ガイドの主な項目



ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに



行動ガイドでは、より具体的な事例を示しています。たとえば、役職呼称を撤廃し、お互い「さん付け」で呼び合う。社内メールでの形式的な挨拶や慣用的表現の撤廃。また、社内メールシステムで顔写真の掲載を推奨し、個々のコミュニケーションを行うことの自覚を促すなど、すぐ実践できる具体策を示しています。

座談会の終了時、人事部長や各部署の上司が率先して「LIXIL 行動ガイド」を実践し、自然な社内文化の醸成に引き続き努めていくことを確認しました。

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

この行動ガイドの社内発信後、CHRO の松村をはじめ各組織の人事部長が一堂に会し、その浸透状況と今後のあり方について語り合う座談会を開催しました。

主な話題 行動ガイドへの従業員の声、反応について

- ・役職などの社内の立場に依存しない、フラットなコミュニケーションが浸透することで、幅広いメンバーの新しい発想や意見を拾い上げができるようになる。これは効率アップにもつながるだろう。
- ・服装のカジュアル化については若いメンバーから敏感に行動に移しており、変化を皆で楽しむという意識が見受けられる。さらに浸透させるためには、上司がまず実行していく。



・服装や社内コミュニケーションなどで自由な面が増えた分、それぞれが自律を高め、全員のレベルアップが求められる。従業員一人ひとりの意識と努力が「LIXIL 行動ガイド」を模範とした新しい LIXIL の企業文化づくりにつながる。

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

従業員とともに ヘルスケア

「働き方改革」という言葉が少しずつ浸透し、フレキシブルな個人の働き方や就労への意識も徐々に多様化してきていますが、日本国内では、まだまだ長時間労働などに起因する健康面の課題があります。

また、日本は世界1位の長寿国であり、総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は27.3%です。就業者総数に占める高齢者（65歳以上）は11.4%で、12年連続で増加^{*}しており、「健康長寿社会」の実現に向けて、就労世代の従業員のヘルスケアに注力することが、各企業にも求められています。

LIXILでは、「グループ企業行動憲章」の中に「働くすべての人の安全を優先し、労働災害のない働きやすい職場を実現するとともに、心とからだの健康づくりを推進します。」と明記し、従業員の安全と健康を守る取り組みを実施しています。

* 出典：総務省統計局_統計トピックスNO.97

「LIXIL WELLNESS」

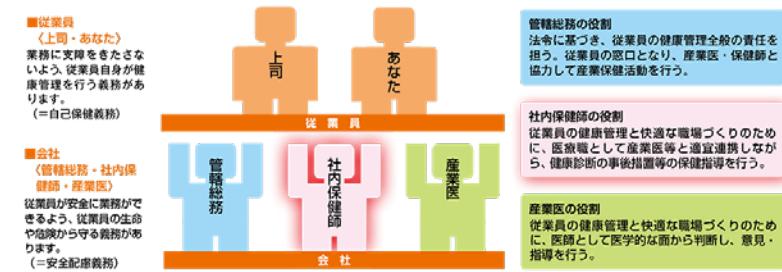
LIXILは、LIXIL健康保険組合と連携し、2015年から会社・健保の相互の資源や強みを生かした協働の活動「LIXIL WELLNESS」に取り組んでいます。

従業員の健康保持増進を支援するため、以下の活動を積極的に展開しています。

- ・一人ひとりの健康意識を高め、自己健康管理意識を向上させる
- ・多くの人に疾病予防及び健康増進の機会を提供する
- ・一人ひとりの健康に配慮した快適職場環境を整備する

これらの活動を実践し、「健康で安心して働く職場づくり」を実現していくために、健康管理のプロフェッショナルである社内保健師が、産業医と管轄総務のパイプ役となって連携しながら、従業員の健康サポート体制を構築しています。

社内保健師は、健康な従業員にはその生活を維持向上できるように、健康に不安やリスクを抱える従業員には、それを改善するための支援を行っています。



健康増進「LIXIL ウォーキングラリー」

健康保険組合と共同で、積極的に運動奨励し、従業員の自発的な運動習慣を促進するプログラムとして、「LIXIL ウォーキングラリー」を2016年から年2回定期的に展開しています。2017年春実施の「奥の細道を歩こう」には約2,000名が参加し、個人とチームで60日間のウォーキングに取り組みました。日々の歩数を専用のWEBサイトに入力することで、歌人 松尾芭蕉が旅した奥の細道を北上し、ゴール松島を目指します。個人では、8000歩以上の達成率80% (48日間/60日間) を、チームでは、チーム内参加者の延べ達成率を競います。



専用WEBサイトでは、相互に励ましあい、共感できるよう、参加者が日々のウォーキングの様子をツイートしたり写真投稿できるページを設けています。そのほかにも、ウォーキングの効果や継続するためのコツなどを紹介しています。

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

2017年春 部署対抗ウォーキングラリー実施要項

実施期間	2017年5月15日-7月13日
対象者	LIXIL 健康保険組合加入事業所に勤務する正社員・嘱託・パート（出向受入含む）
達成基準	個人目標：全 60 日間のうち、8000 歩以上の日が 80% 以上 (48 日間 / 60 日間) チーム成績：参加者の延べ達成率（参加者の 8000 歩達成延べ日数 / 参加者 × 60 日）

メンタルヘルスケアや疾病予防、職場復帰支援

疾病の予防や早期発見には、従業員自身が充分な知識を持つことも大切です。

LIXIL では、事業所単位でのメンタルヘルスセミナーを実施することで、従業員一人ひとりがメンタルヘルスへの正しい知識を持って予防に取り組むよう働きかけています。自分自身や部下のメンタルヘルスについて「こころとからだの健康相談窓口」で、社内保健師に電話やメールで個別相談することができ、専門的なサポートを受けられます。管理職を対象にしたメンタルヘルスマネジメント教育も定期的に実施し、早期発見・早期治療ができる職場環境づくりに努めています。

また、心疾患・脳疾患など、生命に危険を及ぼすだけでなく医療費も高額となる疾病的予防のために、全従業員の健診結果のうち「糖尿病」や「高血圧症」などの生活習慣病で、特に重症度が高い重点対象者については、確実に医療機関受診へつなげ、2016 年(44 名)・2017 年(50 名)ともに受診率 100% を達成しました。

さらに、疾病による休業者については、「職場復帰プログラム」に基づいた復職支援を行っています。これは、休業中のケアから復職後の支援（フォローアップ）まで、それぞれの心身の状態に合わせて対応できるプログラムで、産業医・保健

師が専門的なサポートをしながら職場復帰を支援します。

全国でメンタルヘルスケアの専門的新体制として、精神科産業医を複数拠点に配置しています。

2017 年 2 月には、これらの生活習慣病などの疾病の重症化防止活動、メンタルヘルスケア、運動奨励といった健康保持増進の施策が総合的に高く評価され、経済産業省・日本健康会議による健康経営企業の認定制度「大規模法人部門（ホワイト 500）」の「[健康経営優良法人 2017](#)」に認定されました。



「KENKO 企業会」の活動

労働者の健康保持増進は一企業の活動にとどまらず、働く人たち全員の課題です。

LIXIL は健康管理のノウハウを共有・活用することにより、会員企業全体の健康増進活動の有効性・活用性を向上することを目的とする「KENKO 企業会」をテルモ、第一生命、帝人、NTT ドコモら 13 社と業種業界を超えて 2015 年に共同で設立し、2017 年 6 月現在、約 60 社に拡大しています。日本再興戦略における「健康寿命の延伸」を軸として、健康増進のリーディングカンパニー集団をめざして活動し、64 万人を超える会員企業の従業員の健康に資するだけでなく、日本全体の健康寿命の延伸に貢献していきたいと考えています。



関連リンク

[従業員 労働安全衛生 \(Global サイト\) >](#)

労働安全衛生に関する取り組みは、グループ全体の重要なイシューに位置づけ、グローバルで報告しています。

ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

従業員とともに › 労働組合

世界では労働者的人権侵害問題は大きなイシューであり、2015年9月国連で採択された「[持続可能な開発目標 \(Sustainable Development Goals: SDGs\)](#)」でもディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の機会促進が掲げられています。

日本では、日本国憲法第27条の働く義務と合わせ、第28条に労働者の権利として、団結権、団体交渉権、団体行動権が定められ、労働三権と呼ばれています。LIXILは法令を順守し、労働条件や職場環境改善などについて、労働組合と建設的な協議を重ね、相互に尊重しあい、信頼しあう関係構築に努めています。

LIXIL 労働組合

国内では、企業内組合が多く、LIXILもLIXIL原籍の正社員を対象としたユニオンショップ制によるLIXIL労働組合を結成しており、13,869名(2017年3月末日現在)が加入し、「働きやすい職場環境づくり」を組合員目線で進めています。

LIXIL労働組合は、全ての活動の基本となる「ミッション・ビジョン・バリュー」を制定し、活動に取り組んでいます。



LIXIL 労働組合のミッション、ビジョン、バリュー

ミッション（労働組合の存在意義、命を使って実現するもの）

組合は、みんなの笑顔を創ります。守ります。育てます。

ビジョン（ミッションを実現するためのありたい姿）

会社	職場	個人
世界中の人々から愛され、 誇りを持って働ける会社	やる気、活気、思いやりが あふれる職場	自ら成長を重ね、 感謝し感謝される人

バリュー（ミッション、ビジョンを実現するための労働組合役員行動指針）

私たちには、絆を大切にします	私たちには、学びを大切にします	私たちには、率先行動を大切にします
----------------	-----------------	-------------------

組合と会社でコミュニケーションを図るため「労使協議会」を定期的に実施し、一定の成果を挙げてきました。特に、全体的な労働条件改定などの重要なテーマについては労使での「専門委員会」を設置し十分な検討・協議を行っています。また、ワーク・ライフ・フレキシビリティ（WLF）検討委員会では、育児時短制度や延長保育料補助など、仕事と家庭の両立支援に関わる制度の見直しを行ってきました。加えて、現在では育児や介護に限らず、ますます多様化するライフスタイルに対応するための柔軟な働き方についても議論を重ねていくこととしています。

こうしたプロセスを経て導入・改訂された労働条件や各種制度は、職場を代表する組合役員で構成される中央委員会で説明、質疑応答が行われ、その後職場会にて組合員とも情報共有しています。また組合や会社の制度などをまとめた「ユニオンガイド」を定期的に改定、配布することで、制度の周知、有効活用を図っています。



ステークホルダー エンゲージメント

お客さまのために

- | 安全に関する情報発信と啓発
- | ビジネスパートナーとともに

地域社会の中で

- | 地域との対話
- | 自然環境の保全
- | 復興支援
- | 地域との協働
- | 寄付、協賛、共催

未来世代のために

- | 伝え、ともに学ぶ
- | 日本での評価、約束

従業員とともに

- | 多様性の尊重
- | 働きがいのある職場環境づくり
- | ヘルスケア
- | 労働組合

・定期大会の開催

労働組合の最高決議機関として「定期大会」が毎年開催されています。年間の活動実績や来期に向けての活動方針、決算や来期予算などの承認を約100名出席者（代議員）による採決で決めています。

・年末一時金、春闘交渉の実施

組合では2回／年会社側と団体交渉を行っています。秋（10月～11月）には年末一時金について、春（2月～3月）は賃金、一時金、労働条件について交渉を行っています。

・組合機関紙「TUNE(チューン)」の定期発行

組合活動や組合員からの投稿記事などを掲載した機関誌「TUNE」を定期的（4回／年）に発行しています。様々な情報を満載したこの機関誌は、組合員に直接手渡し情報共有できるツールとしての重要な役割を担っています。多様なコーナーが満載されている中で、特に組合員の休暇の過ごし方を紹介する「休暇の達人」は充実した余暇の参考にもなり人気コーナーの一つです。



・イントラサイト「りゅ～ねっと」

労働組合では、会社の制度や組合活動をよりタイムリーにお知らせする、イントラネット「りゅ～ねっと」を立ち上げています。「りゅ～ねっと」では、LIXIL労働組合の基本情報や日々の活動報告のほか、労働組合をより分かりやすく身近に感じてもら



えるよう執行委員長をはじめとする組合役員のコラムや相談コーナーなどを掲載しています。

組合員意識調査「Union Check」の実施

LIXIL労働組合では、昨年に続き、2017年も組合員へのアンケート調査を実施しました。

組合員の女性比率も高まり、また若い世代を中心に就労への意識やライフスタイルにも変化が表れてきています。組合活動に対するイメージや要望を正しく把握し、組合活動の意義を再周知していくことを目的に実施しています。

LIXILスマイルクラブ

LIXILスマイルクラブは、福利厚生制度を専門に扱う団体で組合員とその家族の生涯総合福祉の増進を図ることを目的としています。会員の皆さんのが「安心」した生活を送ることを最優先に考え、日常生活での「充実」を図ることにより、「仕事への活力」に繋がるよう支援しています。

病気・ケガ・事故に遭った場合など、万一の備えや余暇の充実として、団体優遇制度の導入や福利厚生サービスを中心に、結婚から葬儀に至るまで生活面での支援や、ライフイベントに合わせたセミナーや自己研鑽支援サービス、会員向け販売会などを開催しています。

<主な制度紹介>

慶弔金制度、団体保障制度、各種融資制度、リフォーム支援制度、車両紹介制度、儀式支援サービス、福利厚生サービス等

